

科目名	科目担当代表教員	ページ数
作業療法評価学演習	大川 浩子	2
精神障害作業療法治療学演習	大川 浩子	7
運動学Ⅱ	大森 圭	12
解剖学実習	金子 翔拓	17
生理学実習	木村 一志	22
リハビリテーション栄養学	佐々木 将太	27
整形外科学	田邊 芳恵	31
精神医学Ⅱ	瀧山 晃弘	36
内科学	水越 常德	41
臨床心理学	松岡 紘史	46
基礎作業学	白戸 力弥	50
作業分析学実習Ⅱ	金 京室	55
作業療法研究法	大川 浩子	60
作業療法評価学	大坂 隆介	65
作業療法評価学実習Ⅱ	金子 翔拓	70
高次脳機能障害作業療法治療学演習	金谷 匡紘	75
高齢期作業療法治療学演習	玉 珍	80
身体障害作業療法治療学実習	白戸 力弥	85
日常生活適応学演習	大坂 隆介	90
発達障害作業療法治療学	小玉 武志	95
発達障害作業療法治療学演習	小玉 武志	100
総合臨床実習Ⅰ	金子 翔拓	105
総合臨床実習Ⅱ	白戸 力弥	110

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 作業療法評価学					
科目名		作業療法評価学演習				ナンバリング	3444
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	大川 浩子、大坂 隆介						
授業の位置づけ							
作業療法学科のディプロマポリシーの「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」を達成するための科目であり、作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけるための科目である。解剖学、解剖学実習、運動学、運動学実習、生理学、生理学実習、精神医学、作業療法評価学を基に実施していく。作業療法評価学実習Ⅰ・Ⅱにつながる科目である。							
授業の概要							
作業療法士には、疾病の症状や機能障害の評価を基盤に、活動や参加についても評価を行い、対象者の全体像を把握することが期待される。そのために必要な評価計画の立案、評価の実施、利点と問題点の抽出、ニーズ・目標の明確化といった評価の実際的な過程を学ぶ							
到達目標							
評価学で学習した内容に加え、作業療法の各種評価法について、体験を通して具体的なイメージを持つことができ、それらを説明することができる。また具体的な疾患から評価する項目をリストアップすることができる							
授業の方法							
講義および演習形態。Active learning (グループワークにて主体的に課題に取り組み問題解決する)。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

大坂隆介:病院(身体障害領域)において作業療法士として5年以上勤務した経験を活かし, 評価学演習の身体障害領域の授業を行う。
大川浩子:病院や施設などの精神科領域において作業療法士として5年以上勤務した経験を活かし, 評価学演習の精神障害領域の授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

試験後個別対応にてフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	作業療法評価に必要な身体機能に関する具体的な評価法(特に触診)を学ぶ	骨格筋やコツのランドマークについて予習する 30分	骨格筋やコツのランドマークについて復習する 15分
担当教員	未定		
第2回	作業療法評価に必要な身体機能に関する具体的な評価法(特に触診)	骨格筋やコツのランドマークについて予習する 30分	骨格筋やコツのランドマークについて復習する 15分
担当教員	未定		
第3回	作業療法評価に必要な身体機能に関する具体的な評価法と筋緊張について学ぶ	筋緊張について予習する30分	筋緊張について復習する 15分
担当教員	未定		
第4回	作業療法評価に必要な身体機能に関する具体的な評価法と筋緊張について学ぶ	筋緊張について予習する30分	筋緊張について復習する 15分
担当教員	未定		

第5回	作業療法評価に必要な身体機能に関する具体的な評価法(特に脳神経検査)を学ぶ	脳神経検査について予習する 30分	脳神経検査について復習する 15分
担当教員	未定		
第6回	作業療法評価に必要な身体機能に関する具体的な評価法(特に脳神経検査)を学ぶ	脳神経検査について予習する 30分	脳神経検査について復習する 15分
担当教員	未定		
第7回	作業療法評価に必要な身体機能に関する具体的な評価法(特に協調性検査)を学ぶ	協調性検査について予習する 30分	協調性検査について復習する 15分
担当教員	未定		
第8回	身体領域の神経疾患, 神経・筋疾患の評価を学ぶ	神経・筋疾患の評価について予習する 30分	神経・筋疾患の評価について復習する 15分
担当教員	未定		
第9回	精神障害領域の評価法を学ぶ①:面接・観察を中心に	作業療法評価学第3版P36～52、P478～485を読んでおくこと 30分	面接・観察の種類や構造、原則及び留意点をまとめること 15分
担当教員	大川 浩子		
第10回	精神障害領域の評価法を学ぶ②:精神機能の検査を中心に	作業療法評価学第3版P491～497を読んでおくこと 30分	講義で紹介された検査の概要(種類、対象、内容)についてまとめること 15分
担当教員	大川 浩子		

第11回	精神障害領域の評価法を学ぶ③:生活機能の検査を中心にと確認テスト	作業療法評価学第3版P486～490を読み、評価の概要を把握すること 30分	REHAB、LASMI、JAOT版ケアアセスメントの概要についてまとめること。確認テストの結果を踏まえ、知識の補完を行うこと 15分
担当教員	大川 浩子		
第12回	精神障害による生活障害の評価(1)～院内・デイケアにおける作業療法士の役割と評価について(ゲストスピーカー:板垣徹氏)	精神科作業療法及びデイケアにおける作業療法士に関する文献を1つ以上読むこと 30分	精神科作業療法及びデイケアにおける作業療法士の役割と用いている評価についてまとめること 15分
担当教員	大川 浩子		
第13回	精神障害による生活障害の評価(2)～REHAB、LASMI等の評価スケールの実際について(ゲストスピーカー:板垣徹氏)	REHAB、LASMIの概要、評価方法について確認すること 30分	REHAB、LASMIについて実際に実施できるようにまとめること 15分
担当教員	大川 浩子		
第14回	職業リハビリテーションに関する評価法(1)～相談機関における作業療法士の役割と評価について(ゲストスピーカー:川村賢治氏)	地域の相談機関についてWeb、文献等で調べること 30分	相談機関の作業療法士の役割と評価についてまとめること 15分
担当教員	大川 浩子		
第15回	職業リハビリテーションに関する評価法(2)～一般職業適性検査(GATB)について(大川)(ゲストスピーカー:川村賢治氏)	指定されたグループごとでGATBの器具検査を実施すること 30分	GATBの特徴、検査方法についてまとめること 15分
担当教員	大川 浩子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	確認テストの成績,レポート, 授業中の態度・参加についても判定材料とする	

その他	0	
教科書		
標準作業療法学専門分野 作業療法評価学 第3版/能登真一・他編/医学書院		
参考文献		
適宜講義内で紹介する		
履修条件・留意事項等		
休まず出席すること		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 作業療法治療学					
科目名		精神障害作業療法治療学演習				ナンバリング	3534
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	大川 浩子						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」および「作業療法を実践するために必要な文章力・対人コミュニケーションの技能・プレゼンテーションとディスカッションの基本的技能を身につけている。(思考・判断・表現)」と特に関係する科目である。また、その他のディプロマ・ポリシーとも関係する科目である。「精神医学Ⅰ・Ⅱ」「作業療法評価学」「精神障害作業療法治療学」を基礎とし、「精神障害作業療法特論」「臨床実習Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」につながる科目である。							
授業の概要							
精神障害作業療法治療学の講義を踏まえ、精神科作業療法の主な対象である脳の気質性障害、統合失調症、躁鬱病、適応障害などの疾患を取り上げ、各疾患に対する作業療法アプローチについて演習形式で学ぶ。							
到達目標							
1. 精神科作業療法における代表的な疾患への介入と留意点を説明できる。 2. 治療共同体及び生活療法について説明できる。 3. SSTの説明と実施ができる。 4. グループワーク形式の実習を通じて対人関係スキルを用いることができる。							
授業の方法							
教科書、配布資料による講義の後、グループワーク形式の演習を実施する。また、各疾患に関する介入と留意点に関する確認テストを実施する。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

精神障害領域における作業療法(精神科デイケア、就労支援施設・機関を含む)における勤務経験を活かして、精神障害領域における作業療法について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

レポートは適宜コメント及びフィードバックをします。確認テストは提出後、解説をします。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	日本における精神障害領域の作業療法の歴史の変遷と介入方法 治療共同体及び生活療法等の治療の枠組みに関する歴史と概念を学ぶ。また、これらの歴史を踏まえて作業療法士が担う役割を考える	精神障害と作業療法P36～55を読む(30分)	治療共同体及び生活療法についてまとめる(15分)
担当教員			
第2回	精神症状を経験した方の地域生活 生活精神症状を経験した当事者の経験談から、精神症状を経験して生活していくことへの理解を深める。(ゲストスピーカー:北海道ピアサポート協会2名)	精神障害当事者及び家族が書いた本を1冊以上読む(15分)	講義を踏まえ、指定された形式でレポートを作成する(30分)
担当教員			
第3回	統合失調症の作業療法①:回復過程にあわせた作業療法(急性期と亜急性期) 統合失調症の回復過程を確認し、亜急性期における作業療法について学ぶ。	精神医学で学んだ統合失調症の症状、特徴について確認する。生活を支援する精神障害作業療法P36～53を読む(30分)	亜急性期の作業療法の役割と介入(プログラム)についてまとめる(15分)
担当教員			
第4回	統合失調症の作業療法②:回復過程にあわせた作業療法(回復期と維持期) 統合失調症の回復期と維持期の作業療法について学ぶ。	精神機能作業療法学P94～114、生活を支援する精神障害作業療法P134～138を読む(30分)	回復期と維持期の作業療法の役割と介入(プログラム)についてまとめる(15分)
担当教員			

第5回	統合失調症の作業療法③:統合失調症の認知機能障害について(ゲストスピーカー:森元隆文氏) 統合失調の認知機能障害について学び、介入に関する基礎知識を身に着ける。	生活を支援する精神障害作業療法P36～50を読む(30分)	統合失調症における認知機能障害についてまとめる(15分)
担当教員			
第6回	統合失調症の作業療法④:統合失調症の機能障害に対する介入(認知リハを中心に)(ゲストスピーカー:森元隆文氏) 統合失調の認知機能障害に対する介入方法について学び、実施の際の基礎知識を身に着ける。	精神機能作業療法学P186～202を読む(30分)	統合失調症の認知機能障害に対する介入についてまとめる(15分)
担当教員			
第7回	感情障害の作業療法 感情障害(うつ病、躁うつ病等)に対する作業療法について学ぶ。介入方法の一つであるマインドフルネスについて体験し、理解を深める。	精神障害と作業療法P278～285、生活を支援する精神障害作業療法P260～269、精神機能作業療法学P115～130、249～264を読む(30分)	感情障害に対する作業療法の役割と介入(プログラム)、マインドフルネスについてまとめる(15分)
担当教員			
第8回	人格障害と神経症圏の作業療法 人格障害及び神経症に対する作業療法について学ぶ。特に、関りにおける留意点及び森田療法について確認する。	精神障害と作業療法P286～290、300～304、精神障害作業療法P276～280、290～294、精神機能作業療法学P131～141、154～168を読む(30分)	人格障害及び神経症圏の作業療法と留意点、森田療法についてまとめる(15分)
担当教員			
第9回	アディクションに対する作業療法 摂食障害、アルコール依存症等のアディクションに対する作業療法について学ぶ。特に、回復を促す自助グループ及び動機付け面接(MI)について理解を深める。	精神障害と作業療法P290～300、生活を支援する精神障害作業療法P295～305、精神機能作業療法学P70～83、P142～153を読む(30分)	アルコール依存症、摂食障害に対する作業療法、及び、自助グループ及びMIについてまとめる(15分)
担当教員			
第10回	認知症の作業療法①:認知症の特徴と治療法(ゲストスピーカー:宮嶋涼氏) 精神障害領域での認知症に対する介入の基礎となる、認知症の疾患特徴と治療法について学ぶ。若年認知症も含めた多岐にわたる認知症に対する理解を深める。	精神医学で学んだ認知症の症状、特徴について確認する。(30分)	認知症の症状と特徴、治療法についてまとめる(15分)
担当教員			

第11回	認知症の作業療法②:認知症のリハビリテーションと家族支援(ゲストスピーカー:宮嶋涼氏) 認知症に対する精神科リハビリテーション(作業療法を含めた)と家族支援について学ぶ。特に、若年性認知症の家族会の取り組みなどについて理解を深める。	精神障害と作業療法P315～319、359～363生活を支援する精神障害作業療法P270～275、精神機能作業療法学P70～83を読む(30分)	認知症に対する精神科リハビリテーションと家族支援についてまとめる(15分)
担当教員			
第12回	発達障害の作業療法 発達障害(特に青年期から成人期の発達障害)に対する精神科領域の作業療法について学ぶ。	精神障害と作業療法P304～315、生活を支援する精神障害作業療法P281～289、精神機能作業療法学P169～181を読む(30分)	発達障害に対する精神科作業療法についてまとめる(15分)
担当教員			
第13回	治療計画(プログラム)の立案 精神障害領域の疾患に合わせた治療計画の立案について学ぶ。また、集団におけるプログラム立案の例としてレクリエーションをテーマに理解を深める。	精神障害作業療法治療学で学んだ精神科作業療法の流れと評価について確認する(15分)	レクリエーションの計画をレポートにまとめる(30分)
担当教員			
第14回	SST(ソーシャルスキルトレーニング)① SSTの理論背景と構造について学ぶ。	精神障害と作業療法P348～352を読む(30分)	SSTの理論背景、構造についてまとめる(15分)
担当教員			
第15回	SST(ソーシャルスキルトレーニング)②と確認テスト 小グループに分かれ実際にSSTを体験する。その後、確認テストを行う。	精神障害と作業療法P348～352を読む(15分)	講義を踏まえSSTを実施できるようにまとめる。また、確認テストの結果を踏まえ、不足している知識を補完する。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート課題(40%)、確認テスト(50%)、授業態度(授業内での課題・実習を含む)(10%)	

その他	0	
教科書		
精神機能作業療法学第3版/新宮尚人編/医学書院、精神障害と作業療法新版/山根寛/三輪書店、生活を支える精神障害作業療法第2版/香山明美・他/医歯薬出版		
参考文献		
必要に応じて講義で紹介します		
履修条件・留意事項等		
他の学生に迷惑をかける授業態度(私語、携帯電話等)は厳禁。ゲストスピーカーの日程は別途連絡します。 新型コロナウイルスの蔓延等によりグループワーク等を別の方法に振り替える場合は、別途、詳細を説明します。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
科目名		運動学Ⅱ				ナンバリング	2227
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	大森 圭、橋田 浩、金子 翔拓						
授業の位置づけ							
・理学療法、作業療法を実施するための専門的知識・技術を身につける科目である。 ・「運動学Ⅰ」と関連し「運動学実習」の基礎となる。							
授業の概要							
運動学における動作の解析について、三次元動作分析を中心にバイオメカニクスを基礎から学ぶ。特に重心、床反力、床反力作用点、関節モーメントの理解を深め、リハビリテーションの臨床動作観察の基礎を学ぶ。また、「運動学Ⅰ」で学んだ知識に加えてより専門的な四肢、脊柱の各論を学ぶ。							
到達目標							
・テコおよび重心について説明できる。 ・床反力、床反力作用点について説明できる。 ・関節モーメントと筋活動について説明できる。 ・歩行のバイオメカニクスを説明できる。 ・四肢の運動学各論を説明できる。 ・脊柱の運動学各論を説明できる。							
授業の方法							
パワーポイント、印刷資料を活用しながら講義形式で行う。 確認テストを行い、フィードバックとして確認テストの解説を行う。							
ICT活用							
講義は状況に応じてオンライン授業で行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

出席と理解度確認を兼ねて小テストを行い、回収後に解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	身体運動のバイオメカニクス①(大森):力の合成と分解および生体におけるテコについて理解する	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	大森 圭		
第2回	身体運動のバイオメカニクス②(大森):重心の求め方および速度、加速度について理解する。	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	大森 圭		
第3回	身体運動のバイオメカニクス③(大森):床反力と重心加速度について理解する。	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	大森 圭		
第4回	身体運動のバイオメカニクス④(大森):床反力作用点(COP)とは何か理解する。	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	大森 圭		

第5回	身体運動のバイオメカニクス⑤(大森):関節モーメントのパワーと筋活動について理解する。	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	大森 圭		
第6回	身体運動のバイオメカニクス⑥(大森):立ち上がりのバイオ メカニクスについて理解する。	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	大森 圭		
第7回	身体運動のバイオメカニクス⑦(大森):歩き始めのバイオメ カニクスについて理解する。	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	大森 圭		
第8回	身体運動のバイオメカニクス⑧(大森):歩行のバイオメカニ クス1 重心と床反力作用点について理解する。	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	大森 圭		
第9回	身体運動のバイオメカニクス⑨(大森):歩行のバイオメカニ クス2 重心の動きを滑らかにする機能について理解する。	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	大森 圭		
第10回	身体運動のバイオメカニクス⑩(大森):歩行のバイオメカニ クス3 歩行の観察-OGIGの方法について理解する。	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	大森 圭		

第11回	運動学各論①(橋田):下肢の運動学(股関節、膝関節、足関節)について理解する。	教科書の該当するchapterを読んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	橋田 浩		
第12回	運動学各論②(橋田):脊柱の運動学(顎関節、頸椎、胸椎)について理解する。	教科書の該当するchapterを読んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	橋田 浩		
第13回	運動学各論③(橋田):脊柱の運動学(腰椎、骨盤)について理解する。	教科書の該当するchapterを読んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	橋田 浩		
第14回	運動学各論④(金子):上肢の運動学(肘関節)について理解する。	教科書の該当するchapterを読んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第15回	運動学各論⑤(金子):上肢の運動学(手および手指)について理解する。	教科書の該当するchapterを読んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	金子 翔拓		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	復習小テスト、授業参加態度	

その他	0	なし
教科書		
基礎バイオメカニクス第2版/山本澄子 他 著/医歯薬出版株式会社 筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版/Donald A. Neumann/医歯薬出版株式会社		
参考文献		
基礎運動学 第6版/中村隆一 他 著/医歯薬出版株式会社 観察による歩行分析/Kristen Gotz-Neumann著 月城慶一 他 訳/医学書院		
履修条件・留意事項等		
特になし		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
科目名		解剖学実習				ナンバリング	2206
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	実習	単位	1
担当教員	金子 翔拓、木村 一志						
授業の位置づけ							
作業療法学科のディプロマポリシー「知識・技能」の「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。」を達成するための科目であり、作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけるために解剖学を修める。 解剖学Ⅰ・Ⅱ、運動学Ⅰを基に、具体的な筋の起始停止や神経支配、走行などを学ぶ。							
授業の概要							
人体の構造と各機関の連関を解剖体の観察を通して理解を深める。さらに学生相互に生体の観察、触知や運動などを通して体表解剖実習を行うことにより生体の正常な形態や動きについて学習する。							
到達目標							
模型あるいは図で示された骨、筋肉の名称を、資料を参照せずに述べるができる。筋の起始、停止、作用、神経支配を、資料を参照せずに説明することができる。中枢神経の構造と神経走行、機能について資料を参照せずに説明できる。顕微鏡で観察した人体組織の名称と機能、それに微細構造について、資料を参照せずに説明できること。							
授業の方法							
講義・実習形態、パワーポイントを使用しながらプレゼンテーションをします。							
ICT活用							
Google formにてテスト作成し、確認のための自主学習を促す。							
実務経験のある教員の教育内容							

金子翔拓:病院やクリニックなどの身体障害領域において作業療法士として5年以上勤務した経験を活かし、解剖学実習の授業を行う。
木村一志:東京工業大学理学部、奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科、京都大学大学院医学研究科、三重大学大学院医学系研究科にて10数年勤務。これまでの経験を活かし、解剖学実習の授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業内にてフィードバックしていきます。口頭にてフィードバックしていきます。Google formにてフィードバックしていきます。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	①上肢の骨と筋肉・上肢帯の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を理解する。 ・上肢帯の骨に関して各部位の名称と付着する筋について理解する。 ・上肢帯を走行する神経とその支配筋肉を理解する。 金子	上肢の骨と筋肉・上肢帯の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を予習する 60分	上肢の骨と筋肉・上肢帯の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を復習する 60分
担当教員			
第2回	②上肢の骨と筋肉・上肢帯の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を理解する。 ・上肢帯の骨に関して各部位の名称と付着する筋について理解する。 ・上肢帯を走行する神経とその支配筋肉を理解する。 金子	上肢の骨と筋肉・上肢帯の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を予習する 60分	上肢の骨と筋肉・上肢帯の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を復習する 60分
担当教員			
第3回	③上肢の骨と筋肉・上肢帯の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を理解する。 ・上肢帯の骨に関して各部位の名称と付着する筋について理解する。 ・上肢帯を走行する神経とその支配筋肉を理解する。 金子	上肢の骨と筋肉・上肢帯の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を予習する 60分	上肢の骨と筋肉・上肢帯の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を復習する 60分
担当教員			
第4回	④下肢の骨と筋肉・下肢帯の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を理解する。 ・下肢帯の骨に関して各部位の名称と付着する筋について理解する。 ・下肢帯を走行する神経とその支配筋肉を理解する。 金子	下肢の骨と筋肉・下肢帯の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を予習する 60分	下肢の骨と筋肉・下肢帯の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を復習する 60分
担当教員			

第5回	②下肢の骨と筋肉・下肢帯の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を理解する。 ・下肢帯の骨に関して各部位の名称と付着する筋について理解する。 ・下肢帯を走行する神経とその支配筋肉を理解する。 金子 下肢の骨と筋肉・下肢帯の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を復習する 60分	下肢の骨と筋肉・下肢帯の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を予習する 60分	下肢の骨と筋肉・下肢帯の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を復習する 60分
担当教員			
第6回	③下肢の骨と筋肉・下肢帯の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を理解する。 ・下肢帯の骨に関して各部位の名称と付着する筋について理解する。 ・下肢帯を走行する神経とその支配筋肉を理解する。 金子	下肢の骨と筋肉・下肢帯の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を予習する 60分	下肢の骨と筋肉・下肢帯の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を復習する 60分
担当教員			
第7回	①体幹の骨と筋肉・体幹の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を理解する。 ・体幹の骨に関して各部位の名称と付着する筋について理解する。 ・体幹を走行する神経とその支配筋肉を理解する。 金子	すべての上肢と下肢の筋について復習する 60分	すべての上肢と下肢の筋について復習する 60分
担当教員			
第8回	②体幹の骨と筋肉・体幹の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を理解する。 ・体幹の骨に関して各部位の名称と付着する筋について理解する。 ・体幹を走行する神経とその支配筋肉を理解する。 金子	すべての上肢と下肢の筋について復習する 60分	すべての上肢と下肢の筋について復習する 60分
担当教員			
第9回	③体幹の骨と筋肉・体幹の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を理解する。 ・体幹の骨に関して各部位の名称と付着する筋について理解する。 ・体幹を走行する神経とその支配筋肉を理解する。 金子	すべての上肢と下肢の筋について復習する 60分	すべての上肢と下肢の筋について復習する 60分
担当教員			
第10回	中枢神経系1・脳の神経核、神経走行を立体的に理解する。 木村	脳の神経核、神経走行について予習する. 60分	脳の神経核、神経走行について復習する. 60分
担当教員			

第11回	中枢神経系2・脊髄の神経核、神経走行を立体的に理解する。 木村	脊髄の神経核、神経走行について予習する. 60分	脊髄の神経核、神経走行について復習する. 60分
担当教員			
第12回	組織学・人体各組織の標本を顕微鏡で観察し、その微細構造と名称・機能を理解する。 木村	微細構造と名称・機能について予習する. 60分	微細構造と名称・機能について復習する. 60分
担当教員			
第13回	①上肢の骨と筋肉・上肢帯の筋肉および関連する骨に関して、確認テストをする	上肢の骨と筋肉・上肢帯の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を予習する 60分	上肢の骨と筋肉・上肢帯の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を復習する 60分
担当教員			
第14回	下肢の骨と筋肉・下肢帯の筋肉および関連する骨に関して、確認テストをする	下肢の骨と筋肉・下肢帯の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を予習する 60分	下肢の骨と筋肉・下肢帯の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を復習する 60分
担当教員			
第15回	体幹の骨と筋肉・体幹の筋肉および関連する骨に関して、確認テストをする	すべての上肢と下肢の筋について復習する 60分	すべての上肢と下肢の筋について復習する 60分
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	出席状況、確認テスト	

その他	0	なし
教科書		
プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論/運動器系 第3版 坂井建雄 医学書院		
参考文献		
随時配布する。		
履修条件・留意事項等		
休まず出席すること, 1回でも欠席すれば単位認定しない		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
科目名		生理学実習				ナンバリング	2214
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	実習	単位	1
担当教員	木村 一志、金 京室、神谷 温之						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」ことと関係がある科目である。また、「作業療法学を考究し発展させるために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」こととも関係する。 生理学I、II、IIIと関連し、作業療法研究法演習I、IIの基礎となる。							
授業の概要							
生理学の講義で得た知識をもとに、筋収縮、神経伝導、呼吸、循環、感覚などの測定項目について10名程度1グループとして実習を行い、理解を深める。							
到達目標							
実験を行うことにより人体の生理機能を実感できる。 実験を通じて人体の構造と機能をより深く理解し、その説明ができる。 実習ガイドをもとに実験を正確に遂行し、実験結果を適切に解析し、妥当なレポートを作成できる。							
授業の方法							
実験の目的・方法については実習ガイドによる説明を行い、実験手技についてはデモンストレーションを行う。毎回、異なるテーマの実験を行う。毎回、実験後に実験目的、内容、実験結果および実験結果の解析・解釈をまとめたレポートを作成する。全員が授業計画通り全ての実験を行うが、グループごとに行う実験の順番は異なる。詳細は生理学実習ガイドに記載する。							
ICT活用							
一部の実習項目については、実習で使用した資料をWebで公開し、レポート作成への活用を促す。							
実務経験のある教員の教育内容							

木村:なし
神谷:なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとしてレポートにコメントを付して返却します。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス 実習項目と内容の説明を行う(生理学実習ガイド配布)。 レポートの作成法や評価のポイントについて説明する。 実習グループ分け、実習室使用のルール、注意事項などについてガイダンスを行う。	なし	なし
担当教員	木村 一志		
第2回	筋電図1: 上肢筋電図、運動神経伝導速度 等張性・等尺性運動時の筋電図を記録する。 上肢筋支配の神経を電気刺激し、神経伝導速度を記録する。	実習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	なし
担当教員	木村 一志		
第3回	筋電図1のデータ整理とレポート作成 筋電図記録から屈筋と伸筋の働きを解析する。 誘発筋電図から運動神経の伝導速度を求める。 解析結果をもとにレポートを作成する。	なし	期限内にレポートを作成し、提出すること。(180分)
担当教員	木村 一志		
第4回	筋電図2: 下肢筋電図、誘発筋電図の記録 立位バランスの下肢筋電図を記録する。 下肢筋支配の神経を電気刺激し、M波・H波を記録する。	実習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	なし
担当教員	木村 一志		

第5回	筋電図2のデータ整理とレポート作成 立位バランス中の各筋の筋電図を解析し、姿勢制御における各筋の機能を理解する。 刺激の強さとM波・H波の振幅の変化を解析する。	なし	期限内にレポートを作成し、提出すること。(180分)
担当教員	木村 一志		
第6回	感覚1:皮膚感覚 二点識別閾(2点刺激閾)の測定。 安静時に測定した人体各部の2点刺激閾に及ぼす運動(踏み台昇降運動)の影響を調べる。	実習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	なし
担当教員	木村 一志		
第7回	感覚1のデータ整理とレポート作成 身体各部位の二点識別閾と大脳皮質体性感覚野における体部位局在領域との関係を考察する。 体性感覚に及ぼす疲労の影響を考察する。	なし	期限内にレポートを作成し、提出すること。(180分)
担当教員	木村 一志		
第8回	感覚2:視覚・聴覚 網膜上の盲点の位置測定を行う。 錯視図を参考に視覚のあいまいさを実感する。 気導・骨導聴力を測定する。	実習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	なし
担当教員	木村 一志		
第9回	感覚2のデータ整理とレポート作成 網膜の中心(中心窩)から盲点までの距離を推定する。 左目について盲点の存在を確認し、盲点補完作用の意義を考える。 気導聴力と骨導聴力の聴覚伝導路の違いを確認する。 聴力レベルと周波数及び年齢との関係を考察する。	なし	期限内にレポートを作成し、提出すること。(180分)
担当教員	木村 一志		
第10回	心電図:正常心電図の導出記録 肢導出と胸部導出による心電図の記録を行う。 安静時心電図と精神負荷による変化を測定する。	実習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	なし
担当教員	木村 一志		

第11回	心電図のデータ整理とレポート作成 心電図の解析を行い、アイントレーベン三角形から心臓の電気軸を求める。 心電図をP, QRS、T波について潜時振幅を測定する。	なし	期限内にレポートを作成し、提出すること。(180分)
担当教員	木村 一志		
第12回	呼吸機能:スパイロメータによる呼吸機能の測定 スパイロメータを用い呼吸機能を測定する。 呼吸基本値の測定と運動・体位変換による呼吸機能の変化を測定する。	実習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	なし
担当教員	木村 一志		
第13回	呼吸機能のデータ整理とレポート作成 スパイロメータによる測定結果の解析を行う。 呼吸機能に影響を与える因子について考察する。	なし	期限内にレポートを作成し、提出すること。(180分)
担当教員	木村 一志		
第14回	実習のまとめ 全実習を振り返り、実習の意義を確認する。 また、実習レポートについて講評を加え、レポート作成の意義を確認する。	なし	なし
担当教員	木村 一志		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポートと実習参加態度で評価する。 全ての授業に参加し、レポートを全て提出しないと単位を認定しない。	
その他	0		
教科書			

生理学実習ガイドを配布する。

参考文献

新訂生理学実習書、日本生理学会編、南江堂
コメディカルのための生理学実習ノート、杉春夫著、南江堂
生理学実習NAVI、大橋敦子監修、医歯薬出版
生理学I、II、IIIの授業で使用了教科書

履修条件・留意事項等

遅刻・欠席は厳禁。
白衣、ネームプレート、実習靴を必ず着用すること。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		リハビリテーション栄養学				ナンバリング	2342
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	1
担当教員	佐々木 将太						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている(知識・技能)」「作業療法学を考究し発展させるために必要な基本的知識を身につけている(知識・技能)」「作業療法理論に基づき、生活行為の向上について、対象者の自律性と個別性を尊重できる(関心・意欲・態度)」ことと関連する科目である。 「生理学」「生命科学」「リハビリテーション医学」と関連し、「チーム医療概論」の基礎となる。							
授業の概要							
治療やリハビリテーションを円滑に進めるうえで、栄養の基礎的知識が欠かせない状況となっている。 本科目では栄養の基礎知識から、臨床現場で接する機会の多い高齢者、主な病態に対する栄養療法の基礎を学ぶ。 栄養の基礎的知識を習得し、「栄養」に配慮することでリハビリテーションによる栄養不良を防ぎ、より効率的なリハビリテーションができることを理解する。							
到達目標							
・栄養素とその働きを説明できる。 ・栄養状態の評価に必要な指標、臨床検査値、身体計測法などについて説明できる。 ・栄養補給法の概略について説明できる。 ・病態と栄養学的対策との関連を説明できる。 ・リハビリテーションにおける栄養知識の重要性を説明できる。							
授業の方法							
スライドおよび配布資料を用いて講義形式で進める。 授業の理解度をはかるため、授業毎に確認小テストを実施する。							
ICT活用							
授業に関する事項は、Classroomを用いる。 Google Formを用いて小テストを実施する。							
実務経験のある教員の教育内容							

なし

課題に対するフィードバックの方法

授業内で確認小テストの解説をする。
レポート課題へのフィードバックは、ルーブリックを通して行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【ガイダンス】【栄養知識の重要性】 栄養、および栄養素の概念とリハビリテーションにおける栄養知識の重要性を学ぶ。 【栄養の基礎① 栄養補給ルート】 治療に用いられる栄養補給法の概略について学ぶ。 【栄養学の基礎② 栄養ケアプロセス】 栄養ケアプロセスの概略について学ぶ。	序章: pp.1-18 第1章 1. 栄養補給ルート: pp.20-22 第1章 7. 栄養ケアプロセス: pp.78-84 を読んでおく (90分)。	配布資料および授業内容を整理する (90分)。
担当教員			
第2回	【栄養の基礎③ 栄養素の役割】 栄養素代謝の概略について学ぶ。 リハビリテーションを行う患者の必要栄養量を学ぶ。	第1章 3. 栄養素の役割: pp.28-56 を読んでおく (90分)。	配布資料および授業内容を整理する (90分)。
担当教員			
第3回	【栄養の基礎エネルギー代謝】 エネルギー代謝の概略と消費エネルギーの算出方法を学ぶ。	第1章 2. エネルギー代謝: pp.23-27 を読んでおく (90分)。	配布資料および授業内容を整理する (90分)。
担当教員			
第4回	【主な病態の栄養療法①低栄養】 低栄養の病態生理・栄養評価と栄養療法を学ぶ。	第2章 1. 低栄養者の栄養管理: pp.86-91 を読んでおく (90分)。	配布資料および授業内容を整理する (90分)。
担当教員			

第5回	【主な病態の栄養療法②摂食嚥下障害, フレイル・サルコペニア】 嚥下障害者の病態生理・栄養評価と栄養療法を学ぶ。 フレイル・サルコペニアの病態生理・栄養評価と栄養療法を学ぶ。	第2章 2. 摂食嚥下障害, 3.フレイル, 4サルコペニア: pp.92-123 を読んでおく (90分).	配布資料および授業内容を整理する (90分).
担当教員			
第6回	【主な病態の栄養療法③ロコモティブシンドローム】 ロコモティブシンドロームの病態生理・栄養評価と栄養療法を学ぶ。	第2章 5. ロコモティブ・シンドローム: pp.124-128 を読んでおく (90分).	配布資料および授業内容を整理する (90分).
担当教員			
第7回	【主な病態の栄養療法④メタボリックシンドローム】 メタボリックシンドロームの病態生理・栄養評価と栄養療法を学ぶ。	第2章 6. メタボリック・シンドローム: pp.129-137 を読んでおく (90分).	配布資料および授業内容を整理する (90分).
担当教員			
第8回	【運動 (身体活動と栄養)】 身体活動が多い者, お多くなる場合の栄養について学ぶ。	身体活動と栄養の関連について調べ, 興味を持ったことを整理しておく. (90分)	配布資料および授業内容を整理する (90分).
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合 (%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	90	提出された課題の内容により評価する. 1回目 (授業4回目終了後): 35% 2回目 (授業8回目終了後): 55%	
その他	10	各授業で実施した小テストを成績評価の一部に用いる.	
教科書			

リハビリテーションに役立つ 栄養学の基礎 [第3版] / 栢下淳・若林秀隆 編著 / 医歯薬出版株式会社

参考文献

適宜紹介する

履修条件・留意事項等

必修科目

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		整形外科科学				ナンバリング	2304
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	田邊 芳恵						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」および「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている(知識・技能)」に特に対応する科目である。また、「理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけている(知識・技能)」「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる(関心・意欲・態度)」「作業療法学を考究し発展させるために必要な基本的知識を身につけている(知識・技能)」にも対応している科目である。理学療法および作業療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけるための科目であり、臨床医学である整形外科科学を学ぶ。これまでに学習した「解剖学」「生理学」「運動学」「リハビリテーション医学」などと関連し、「運動器障害理学療法学」「運動器障害作業療法学」「臨床実習」の基礎となる。							
授業の概要							
脊柱および四肢の骨・関節・神経・筋組織は動器を構成する。運動器の疾患および障害の治療は予防も含めて理学療法士・作業療法士が行う医学的リハビリテーションである。これら運動器に発生する疾患および障害を機能解剖、病態生理、画像評価の面から学習し、保存的・外科的治療の適応と方法について理解を深める。							
到達目標							
1. 一般的な整形外科疾患について、疫学、予後、病因、症候、検査所見、画像所見、診断、治療について説明できる。 2. 一般的な整形外科疾患について、医学的リハビリテーションとの関連性を説明できる。							
授業の方法							
1. 教科書を中心に授業を行い、講義形式ですすめる。 2. 整形外科領域の一般的疾患の症状に関しては、画像をスライドで示しながら講義をすすめる。 3. 授業の終わりには質問の時間を設ける。 4. 理解度の確認として単元毎に小テストを実施する。合格点に達しなかった場合は、合格点に達するまで繰り返し再テストを実施する。							
ICT活用							
必要に応じてGoogle Meetを用いた双方向授業を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

担当者は、整形外科専門の医療機関において理学療法士としての勤務経験があり、その後も整形外科領域の基礎研究や臨床研究を継続している。この経験を活かして整形外科学の授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

小テストの解説を行う。また、小テストの結果、合格点に達しなかった場合は、合格点に達するまで繰り返し再テストやレポート課題を実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	・オリエンテーション ・骨の構造について理解する ・骨折の種類について理解する	授業内容について教科書の関連する部分(1～22ページ)を読んでもおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	田邊 芳恵		
第2回	・骨折の治療について理解する ・偽関節と骨壊死について理解する	授業内容について教科書の関連する部分(23～62ページ)を読んでもおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	田邊 芳恵		
第3回	・変形性関節症について理解する	授業内容について教科書の関連する部分(63～98ページ)を読んでもおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	田邊 芳恵		
第4回	・関節リウマチと類縁疾患について理解する	授業内容について教科書の関連する部分(99～134ページ)を読んでもおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	田邊 芳恵		

第5回	・小テスト1: 1回目～4回目を試験範囲とする ・講義3、講義4で学習した疾患以外の軟骨・関節の疾患について理解する	小テスト1の試験範囲について教科書の関連する部分(1～134頁)およびノートを確認しておくこと。また、授業内容について教科書の関連する部分(135～154ページ)を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	田邊 芳恵		
第6回	・靱帯の外傷や疾患について理解する ・腱の外傷や疾患について理解する ・筋肉の外傷や疾患について理解する	授業内容について教科書の関連する部分(155～196ページ)を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	田邊 芳恵		
第7回	・小テスト1の解説を行う ・絞扼性神経障害について理解する	授業内容について教科書の関連する部分(197～240ページ)を読んでおくこと。(90分)	小テスト1の内容について復習すること。また、授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	田邊 芳恵		
第8回	・神経根の障害について理解する	授業内容について教科書の関連する部分(241～270ページ)を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	田邊 芳恵		
第9回	・小テスト2: 5回目～8回目を試験範囲とする ・脊髄疾患について理解する	小テスト2の試験範囲について教科書の関連する部分(135～270頁)およびノートを確認しておくこと。また、授業内容について教科書の関連する部分(271～300ページ)を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	田邊 芳恵		
第10回	・小児整形外科について理解する	授業内容について教科書の関連する部分(301～342ページ)を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	田邊 芳恵		

第11回	・小テスト2の解説を行う ・切断に対する治療について理解する ・熱傷に対する治療について理解する	授業内容について教科書の関連する部分(343～356ページ)を読んでおくこと。(90分)	小テスト2の範囲について復習すること。また、授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	田邊 芳恵		
第12回	・身体各部位における運動器疾患の鑑別疾患について理解する	授業内容について教科書の関連する部分(357～368ページ)を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	田邊 芳恵		
第13回	・小テスト3:9回目～12回目を試験範囲とする ・ロコモティブシンドローム、廃用症候群、運動器不安定症について理解する ・サルコペニア、骨粗鬆症について理解する	小テスト3の試験範囲について教科書の関連する部分(271～368頁)およびノートを確認しておくこと。また、授業内容について文献やインターネット等を用いて事前に調べておくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	田邊 芳恵		
第14回	・整形外科疾患の画像評価について理解する	授業内容に関連する事柄をインターネットや図書を用いて予習しておくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	田邊 芳恵		
第15回	・小テスト3の解説を行う ・本講義の総まとめ	本講義のノートや小テストを全て見直しておくこと。(90分)	小テスト3の内容について復習すること。また、授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	田邊 芳恵		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	行わない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	90	小テスト毎に成績を出し、その結果を総合的に判断する	

その他	10	授業の参加態度を評価する
教科書		
リハビリテーションのための整形外科学の歩き方 監修・田中栄 著・仲村一郎 南江堂 2020年		
参考文献		
標準整形外科学 第14版 井樋栄二・他編集 医学書院 2020年		
履修条件・留意事項等		
聴講に際しては、すでに学んだ運動器の解剖や生理学を十分に復習して臨むこと。		
備考欄		
学習内容に記載されているものの中で教科書に掲載されていない部分については、インターネットや文献などを用いて予習や復習を行うこと。		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		精神医学Ⅱ				ナンバリング	2311
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	瀧山 晃弘						
授業の位置づけ							
作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけるための科目である。 ディプロマ・ポリシーの「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」と特に関係がある科目である。また、その他のすべてのディプロマ・ポリシーと関係している。 「精神医学Ⅰ」と関連し、「精神障害作業療法治療学」「精神障害作業療法治療学演習」「精神障害作業療法治療学特論」の基礎となる。							
授業の概要							
精神医学Ⅰで得た主要精神科疾患の症状などについての知識に加え、それぞれの疾患の病因、心理社会的な困難、治療法についての理解を深める。							
到達目標							
1. 精神科疾患に関する知識を深め、説明できる。 2. これらの知識を、作業療法士としてリハビリテーションを実践していくときに応用できる。 3. 精神科疾患を持つ患者をよく理解し適切に対応できるようになる。							
授業の方法							
パワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。 必要に応じてオンライン授業を実施する。 Google Classroomを用いた理解度確認テストを講義時間内に行う。							
ICT活用							
Google Classroomの小テスト機能を用いて練習問題を提供し自主学習を促す。							
実務経験のある教員の教育内容							

医師としての臨床経験を活かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

小テストのフィードバックとして解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	「神経症性障害」「生理的障害および身体的要因に関連した障害」 神経症性障害の概念とその種類、臨床的特徴について学ぶ。また、身体的要因と関連した精神障害にはどのようなものがあるか理解する。	教科書のpp.164～180を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第2回	「成人のパーソナリティ・行動・性の障害」 パーソナリティ障害の概念、代表的なパーソナリティ障害の類型とその特徴について学ぶ。	教科書のpp.181～187を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第3回	「心理的発達の障害」「精神遅滞[知的障害]」 心理的発達障害の概念を精神遅滞との比較で学ぶ。特異的発達障害と広汎性発達障害の臨床的特徴、それぞれの障害に対する治療やリハビリテーション、教育の現状を学ぶ。	教科書のpp.188～206を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第4回	「コンサルテーション・リエゾン精神医学」 コンサルテーション・リエゾン精神医学の概念を理解し、精神腫瘍学、臨死状態やターミナルケアにおける精神的問題について学ぶ。	教科書のpp.207～211を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		

第5回	「心身医学」 心身医学の概念と治療の基本について学ぶ。	教科書のpp.212～214を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第6回	「ライフサイクルにおける精神医学」 ライフサイクルの観点から、小児期・青年期、成人期、初老期、老年期の精神・心理特性について学ぶ。	教科書のpp.215～230を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第7回	「精神障害の治療とリハビリテーション」① 精神障害に対して用いられている主な治療法の種類と特徴、適応などについて学ぶ。	教科書のpp.231～253を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第8回	「精神障害の治療とリハビリテーション」② 精神療法その1. 認知行動療法の基本技法、行動変容技法、認知変容技法について学ぶ。	教科書のpp.231～253を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第9回	「精神障害の治療とリハビリテーション」③ 精神療法その2. 芸術療法について学ぶ。	教科書のpp.231～253を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第10回	「精神科保健医療と福祉，職業リハビリテーション」 精神保健福祉法と関連法規、精神障害者の職業リハビリテーションについて学ぶ。	教科書のpp.254～272を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		

第11回	「社会・文化とメンタルヘルス」① 学校におけるメンタルヘルス(学校精神保健)について学ぶ。	教科書のpp.273～275を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第12回	「社会・文化とメンタルヘルス」② 職場のメンタルヘルス(産業精神保健)について学ぶ。	教科書のpp.275～276を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第13回	「社会・文化とメンタルヘルス」③ 家庭のメンタルヘルス(家族精神保健)について学ぶ。	教科書のpp.276～277を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第14回	「社会・文化とメンタルヘルス」④ 司法精神医学、社会現象とメンタルヘルスについて学ぶ。	教科書のpp.277～278を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第15回	「社会・文化とメンタルヘルス」⑤ 宗教と精神障害について学ぶ。	教科書のp.278を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小テスト、レポートの提出状況等。詳細は授業中に伝える。	

その他	0	なし
教科書		
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版増補版／上野武治 編集／医学書院		
参考文献		
標準精神医学第8版／尾崎紀夫・三村將・水野雅文・村井俊哉 編集／医学書院		
履修条件・留意事項等		
精神医学Ⅰの修得を前提とする。		
備考欄		
特記事項なし。		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		内科学				ナンバリング	2302
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	水越 常德、明石 浩史、永洞 明典、安丸 卓磨						
授業の位置づけ							
理学療法／作業療法を行うための基本的な専門知識・技術を身につけるための科目である。ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門知識・技術を身につけている(知識・技能)」「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」と特に関係する科目である。「解剖学」「生理学」「病理学」を基礎に主な内科疾患について学び、治療について理解し、「臨床実習」に繋げるための科目である。							
授業の概要							
・患者の全身状態を把握するために必要な、内科疾患の病態や臨床所見について理解する。 ・臨床的に重要な疾患と common である疾患について学ぶ。 ・疾患概念と臨床所見に重点を置きながら理解し、臨床の現場で役に立つ論理的な思考を習得する。							
到達目標							
・各内科疾患について 教科書にある Point を理解したうえで説明できる。 ・各内科疾患の概念、臨床症状、検査所見、治療を説明できる。							
授業の方法							
・パワーポイントと配布印刷物を用いて、講義形式で行う。 ・確認テストを行い、自身の理解度を確認する。							
ICT活用							
未定							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

確認テストについては、解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	循環器・腎泌尿器① 循環器の主な疾患である、心不全、虚血性心疾患、心筋疾患、心臓弁膜症、先天性心疾患、高血圧症、動脈硬化、動脈疾患、静脈疾患について学ぶ。	教科書の p116～p120、p129～p169を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	永洞 明典		
第2回	循環器・腎泌尿器② 循環器の主な疾患である、心不全、虚血性心疾患、心筋疾患、心臓弁膜症、先天性心疾患、高血圧症、動脈硬化、動脈疾患、静脈疾患について学ぶ。また、腎泌尿器の代表疾患である、慢性腎臓病、糸球体腎炎(原発性腎疾患)、続発性腎疾患、腎・泌尿器感染症、泌尿器科疾患、腎不全について学ぶ。	前回の学習範囲を復習し、教科書の p385～p421を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	永洞 明典		
第3回	循環器・腎泌尿器③と確認テスト 腎泌尿器の代表疾患である、慢性腎臓病、糸球体腎炎(原発性腎疾患)、続発性腎疾患、腎・泌尿器感染症、泌尿器科疾患、腎不全について学ぶ。また、到達度を確認するテストを行う。	前回の学習範囲を復習し、教科書の p385～p421を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	永洞 明典		
第4回	消化器① 食道の疾患、胃・十二指腸の疾患、大腸の疾患、肛門の疾患について学ぶ。	教科書の p192～p232を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	明石 浩史		

第5回	消化器② 食道の疾患、胃・十二指腸の疾患、大腸の疾患、肛門の疾患について学ぶ。	前回の学習範囲を復習し、教科書の p192～p232を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	明石 浩史		
第6回	肝胆膵① 肝臓疾患、胆道疾患、膵疾患について学ぶ。	教科書の p253～p285を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	明石 浩史		
第7回	肝胆膵②と確認テスト 肝臓疾患、胆道疾患、膵疾患について学ぶ。また、到達度を確認するテストを行う。	前回の学習範囲を復習し、教科書の p253～p285を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	明石 浩史		
第8回	呼吸器① 代表的な疾患である、呼吸器感染症、アレルギー・免疫疾患、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺疾患、気道系疾患、肺腫瘍、肺循環疾患、換気異常、呼吸不全、胸膜疾患、縦隔疾患について学ぶ。	教科書の p51～p92を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	水越 常德		
第9回	呼吸器② 代表的な疾患である、呼吸器感染症、アレルギー・免疫疾患、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺疾患、気道系疾患、肺腫瘍、肺循環疾患、換気異常、呼吸不全、胸膜疾患、縦隔疾患について学ぶ。	前回の学習範囲を復習し、教科書の p51～p92を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	水越 常德		
第10回	呼吸器③と確認テスト 代表的な疾患である、呼吸器感染症、アレルギー・免疫疾患、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺疾患、気道系疾患、肺腫瘍、肺循環疾患、換気異常、呼吸不全、胸膜疾患、縦隔疾患について学ぶ。また、到達度を確認するテストを行う。	前回の学習範囲を復習し、教科書の p51～p92を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	水越 常德		

第11回	内分泌・代謝① 内分泌疾患である、視床下部・下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患について学ぶ。また、代謝疾患である、糖尿病、低血糖症、肥満症、メタボリックシンドローム、脂質異常症(高脂血症)、痛風／高尿酸血症、ビタミン欠乏症・過剰症について学ぶ。	教科書の p300～p322、p341～p360を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	安丸 卓磨		
第12回	内分泌・代謝②、感染症① 代謝疾患である、糖尿病、低血糖症、肥満症、メタボリックシンドローム、脂質異常症(高脂血症)、痛風／高尿酸血症、ビタミン欠乏症・過剰症について学ぶ。	前回の学習範囲を復習し、教科書の p300～p322、p588～p602を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	安丸 卓磨		
第13回	感染症②と確認テスト 感染症である、細菌性疾患、真菌性疾患、ウイルス性疾患について学ぶ。また、到達度を確認するテストを行う。	前回の学習範囲を復習し、教科書の p588～p602を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	安丸 卓磨		
第14回	血液・膠原病① 血液疾患である、赤血球の疾患、白血球の疾患、出血性疾患について学ぶ。また、膠原病、膠原病と同様の全身性炎症性疾患、膠原病に関連した疾患、アレルギー性疾患について学ぶ。	教科書の p506～p525、p544～p568を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	安丸 卓磨		
第15回	血液・膠原病②と確認テスト 血液疾患である、赤血球の疾患、白血球の疾患、出血性疾患について学ぶ。また、膠原病、膠原病と同様の全身性炎症性疾患、膠原病に関連した疾患、アレルギー性疾患について学ぶ。到達度を確認するテストを行う。	前回の学習範囲を復習し、教科書の p506～p525、p544～p568を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	安丸 卓磨		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	確認テスト及び授業の取り組み状況によって総合的に判断	

その他	0	
教科書		
なるほどなっとく！ 内科学 改訂2版／浅野嘉延／南山堂		
参考文献		
随時紹介する。		
履修条件・留意事項等		
新型コロナウイルス蔓延等により授業の形態が変わる場合は別途説明する。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科	人間科学部 作業療法学科						
区分	専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進						
科目名	臨床心理学					ナンバリング	2338
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	1
担当教員	松岡 紘史						
授業の位置づけ							
理学療法学科のディプロマ・ポリシー「理学療法士としての臨床場面や研究におけるコミュニケーション能力を身につけている。(思考・判断・表現)」および作業療法学科のディプロマ・ポリシー「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」と関係する科目である。							
授業の概要							
臨床心理学は、さまざまな問題の理解と解決に心理的要因が大きく関与していると思われる個人を心理学的な立場から理解し、問題解決を図ろうとする学問である。臨床心理学を支える理論にはさまざまなものがあるが、近年は認知行動的な立場から問題を理解し解決を図る行動理論に基づく考え方が主流となっている。本講義では、臨床心理学の基本的な考え方を学ぶとともに、行動理論による問題の理解と解決方法を理解する。							
到達目標							
1. 医療の中での臨床心理学の必要性について説明できる。 2. 代表的な臨床心理学的アセスメントの方法について説明できる。 3. 代表的な心理療法について説明できる。 4. 行動理論の代表的な基礎理論を説明できる。 5. 行動理論の代表的なアプローチを説明できる。							
授業の方法							
パワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。 理解度確認テストを実施する(8回)。							
ICT活用							
google formsを用いた双方向授業を取り入れる。							
実務経験のある教員の教育内容							

医療機関での臨床心理学の実戦経験を講義におりまぜながら、臨床心理学を用いた患者理解・対応について講義を行う。

課題に対するフィードバックの方法

理解度確認テストの解答をフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	臨床心理学とは 臨床心理学で対象となる問題行動や不適応症状を学習するとともに、どのような領域で臨床心理学が利用されているかを理解する。	参考文献を中心に臨床心理学の必要性について考えておくこと。(60分)	配布プリントをもとに復習を行うこと。(120分)
担当教員			
第2回	アセスメント 臨床心理学で用いられるアセスメントについて理解する	参考文献を中心に臨床心理学で用いられるアセスメントについて予習しておくこと。(60分)	配布プリントをもとに復習を行うこと。特に、国家試験の過去問については十分復習すること。(120分)
担当教員			
第3回	臨床心理学の諸理論 臨床心理学を代表する、精神力動的理論、人間性心理学について学び、それぞれの理論的立場の異動について理解する。	参考文献を中心に臨床心理学で用いられる心理療法(行動療法以外)について予習しておくこと。(60分)	配布プリントをもとに復習を行うこと。特に、国家試験の過去問については十分復習すること。(120分)
担当教員			
第4回	行動理論:学習理論 臨床心理学の実践で不可欠となってきた行動理論のアプローチの中で、問題行動の理解の仕方の基礎となる学習理論について理解する。	参考文献を中心に学習理論について予習しておくこと。(60分)	配布プリントをもとに復習を行うこと。(120分)
担当教員			

第5回	行動理論:機能分析 臨床心理学の実践で不可欠となってきた行動理論の アプローチの中で、問題行動の理解の仕方の1つである機 能分析を理解する。	参考文献を中心に機能分析に ついて予習しておくこと。(60分)	配布プリントをもとに復習を行う こと。(120分)
担当教員			
第6回	行動理論:行動のコントロール 臨床心理学の実践で不可欠となってきた行動理論の アプローチの中で、行動のコントロールに関するアプ ローチを理解する。	参考文献を中心に行動のコン ロールの方法について予習して おくこと。(60分)	配布プリントをもとに復習を行う こと。(120分)
担当教員			
第7回	行動理論:認知のコントロール 臨床心理学の実践で不可欠となってきた行動理論の アプローチの中で、認知のコントロールに関するアプ ローチを理解する。	参考文献を中心に認知のコン ロールの方法について予習して おくこと。(60分)	配布プリントをもとに復習を行う こと。(120分)
担当教員			
第8回	行動理論:気分・感情のコントロール 臨床心理学の実践で不可欠となってきた行動理論の アプローチの中で、気分・感情のコントロールに関するア プローチを理解する。	参考文献を中心に気分・感情の コントロールの方法について予 習しておくこと。(60分)	配布プリントをもとに復習を行う こと。(120分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験を実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・ 参加度・出席態度等)	100	レポート(60%) 理解度確認テスト(40%)	
その他	0	なし	
教科書			

なし

参考文献

リハビリシック 心理・臨床心理学／内山 靖他編／医歯薬出版株式会社
実践家のための認知行動療法テクニックガイド／鈴木伸一他／北大路書房
認知行動療法事典／日本認知・行動療法学会編／丸善出版

履修条件・留意事項等

特になし

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 基礎作業療法学					
科目名		基礎作業学				ナンバリング	3405
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	白戸 力弥、大川 浩子、渡辺 明日香						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」「作業療法学を考究し発展させるために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」「作業療法理論に基づき、生活行為の向上について対象者の自律性とを個別性を尊重できる。(関心・意欲・態度)」全てを達成するための基礎科目。 リハビリテーション概論、作業療法概論から発展、各領域の作業療法評価学、作業分析学実習Ⅰ・Ⅱで実践的な技能を体得する基礎を形成。さらに、作業療法理論を理解し必要な態度形成を行う。							
授業の概要							
作業療法の理論の全体構造と実践モデルについて事例に触れながら理解する。その後、作業療法で作業を用いる時、作業療法士は作業分析を行っていることを理解する。作業分析の種類(包括的作業分析と限定的作業分析)、包括的作業分析に用いる既存のチェックシートと客観的測定指標について学習する。対象別の限定的作業分析の方法や考え方を理解した後、作業療法の数種類の実践モデルによる限定的作業分析にも触れる。							
到達目標							
1. 作業療法の理論についてその種類と概要を説明できる 2. 作業療法の流れにおける作業分析の位置づけ、目的、種類を説明できる 3. 簡単な作業について包括的作業分析ができる 4. 限定的分析について、対象者を想定した事例や作業療法理論との関係から理解したことを説明できる。 5. AMPS(The Assessment of Motor and Process Skills)の概要とAMPS技能項目を理解し臨床的評価にも使えることを説明できる。 6. Modapts法についておおよそを説明できる。 7. 作業療法リーズニングの意味とその種類を述べる事が出来る 8. Evidence-Based Occupatipnal Therapyの重要性を述べる事ができる							
授業の方法							
パワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。 単元ごとにクイズ、最後に確認テストを行う。 事後学習として課題を与える。 各授業中には与えたグループテーマについて学生が調べたり議論したりして発表する。 スマートフォンによるアンケートに答え、クラス全体の回答に基づく包括的作業分析を体験する。							
ICT活用							
DVDの事例などを鑑賞し、作業療法における作業の用い方やクライアント中心の考え方などの現代の作業療法の真髄を考える。Google Formを用いた質問にスマートフォンで答え、リアルタイムに得るクラスの回答により包括的作業分析チェックシートを仕上げる体験をする。遠隔授業が主になる場合は、Googleスライドで共同制作し、Line電話やzoomを用いた小グループの学生間コミュニケーションも体験する。 Google Formによるクイズや小テストも実施する。							
実務経験のある教員の教育内容							

渡辺は予防的分野や身体障がい(生活期)・高齢期・発達障がい・精神障がい分野、白戸は運動器分野、村上は自閉症スペクトラム障がいを中心とする発達障害分野の臨床経験を有する認定作業療法士または作業療法士であり、その経験を踏まえて作業療法における作業の利用、作業分析や作業療法理論について学生の能動的思考を刺激しながら、わかりやすく教授する。

課題に対するフィードバックの方法

クイズ・確認テスト・課題レポート・凝縮ポートフォリオの評価を個別に返却、またはまとめてClassroomに掲示するか授業でフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	作業療法のプロセス(渡辺) ＜事例DVDを観る＞その1 ＊事例を通して作業療法のプロセスを復習する。 ＊作業療法の基礎理論を学ぶ(人-作業-環境モデル) ＊作業療法の他のプロセスモデルを学ぶ(MTDLP, OTIPM) ＊作業科学の提唱する理論 d+b3=sv health	教科書2) 第1章 教科書1) p.60-67 ざっと見ておく。(15分)	Classroomの今回の課題を実施する。(30分)
担当教員	渡辺 明日香		
第2回	作業療法の理論とは？(渡辺) 理論と作業療法、作業療法理論の分類(具体的に確認する) 作業療法理論の背景と発展 歴史的背景とパラダイムの変遷 理論(概念的実践モデル)と関連知識 ＊作業療法理論と臨床実践 現状とこれから	教科書1) p.217-304 教科書4) 第1章, p.250-251 ざっと見る。(15分)	Classroomの今回の課題(重要用語の説明)を実施する。(30分)
担当教員	渡辺 明日香		
第3回	生体力学モデルと身体障害の作業療法 ・Evidence-Based Occupational Therapyの重要性	教科書4) p197~203, p231-240 ざっと見る。(15分)	Classroomの今回の課題を実施する。(30分)
担当教員	白戸 力弥		
第4回	中枢神経障がいへの介入で用いられる作業療法の理論(概念的実践モデル)	教科書4) 目次:中範囲理論をざっと見る。(15分)	Classroomの今回の課題を実施する。(30分)
担当教員	渡辺 明日香		

第5回	認知が関わる作業療法の理論	教科書4) 中範囲理論の中から認知が関わる理論を探しておく。(15分)	Classroomの今回の課題を実施する。(30分)
担当教員	渡辺 明日香		
第6回	発達障がいのある作業療法で有用な作業療法理論 ・感覚統合療法, CO-OP, グループの発達レベルなど	Classroomに提示する資料 教科書4)p.158-166 をざっと見る。(15分)	Classroomの今回の課題を実施する。(30分)
担当教員	渡辺 明日香		
第7回	情緒に働きかける作業療法理論と関連知識 意図の関係モデル, 精神分析と作業 マインドフルネス作業療法, ポジティブ心理学など	教科書4) p176-196 Classroomに提示する資料 をざっと見る。(15分)	Classroomの今回の課題を実施する。(30分)
担当教員	渡辺 明日香		
第8回	作業の力と作業療法師の技(渡辺) ＜事例DVDを観る＞その2 ＊どんな作業が出てきましたか？・この作業療法で大切なことは何でしょう？ ＊気づいたことを話し合しましょう。・作業療法師について ・対象者について・環境について ＊出てきた作業をどう見るか？ ・作業の多角的とらえ方 作業の分類, 形・機能・意味 ＊作業分析 包括的分析と限定的分析	教科書1) p39-50 教科書2) 第1章, 2章 教科書3)p.131-189 ざっと見る。(15分)	Classroomの今回の課題を実施する。(30分)
担当教員	渡辺 明日香		
第9回	作業分析とは？(渡辺) ＊作業分析の歴史、目的 ＊運動-時間分析法:MODAPTS法 ＊作業分析-工程分析-動作分析-運動分析 ＊作業分析:包括的分析の目的と方法 包括的作業分析チェックリストを配布(身体技能, 感覚, 認知など) ・簡易な作業を実際に実施してみる。	教科書1) p39-50 教科書3)p.131-189 ざっと見る(15分)	Classroomの今回の課題を実施する。(30分)
担当教員	渡辺 明日香		
第10回	包括的分析1 ＊簡易な作業を実際に実施してみる。 ＊チェックリストをつけてみる。 ＊不明な点をピックアップする 各グループでどの不明点を調べるかを決め、次回までに発表準備をする。	教科書3) p.131-189 必要な箇所を読む (15分)	不明点をグループで調査。完成できなかったチェックリストを一応は完成しておく。提出はしない。(30分)
担当教員	渡辺 明日香		

第11回	包括的分析2 * 不明点の担当者グループによる発表・説明 * クラスメートがどのように分析したかをGoogle Formでリアルタイムに調査し、その結果を基に包括的作業分析を考える 残りのチェックシートの不明点については渡辺が説明する。	調査した不明点についてGoogleスライドにまとめて発表の準備をする。(15分)	包括的作業分析チェックリストを完成して提出する(30分)。
担当教員	渡辺 明日香		
第12回	限定的作業分析(渡辺) ・事例:対象者を想定した作業分析 ・理論を用いた作業療法と限定的作業分析について考える。	教科書1)p.318-339,p.235-244,245-259 ざっと見る(15分)	Classroomの今回の課題を実施する。(30分)
担当教員	渡辺 明日香		
第13回	客観的, 数量的な作業分析1. 運動-時間分析法:MODAPTS法の可能性	Classroomに置く資料をさっと見しておく。(15分)	Classroomの今回の課題を実施する。(30分)
担当教員	渡辺 明日香		
第14回	客観的, 数量的な作業分析2. ADLの作業遂行分析・技能分析 AMPS(The Assessment of Motor and Process Skills)の紹介 運動技能とプロセス技能とその評価項目 AMPS技能項目を使った臨床的な観察評価事例	参考書1)p126を読む。(1年作業療法概論の教科書) (15分)	Classroomの今回の課題を実施する。(30分)
担当教員	大川 浩子		
第15回	まとめの学習 ・作業療法リーズニングとその種類 ・確認テスト 解答と解説	教科書4)p223-230 ざっと見しておく。	Classroomの今回の課題を実施する。(30分)
担当教員	渡辺 明日香		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	70	事後学習: 課題の合計得点	

その他	30	確認テストの得点
教科書		
1) 作業学第3版 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト/長崎重信監修 浅沼辰志編集/メジカルビュー社 2) 作業療法を観る/菊池恵美子 斎藤佑樹 監修編集/シービーアール 3) ひとと作業・作業活動/山根寛著/三輪書店 4) 5W1Hでわかりやすく学べる 作業療法理論の教科書/小川真寛ほか編集/メジカルビュー社		
参考文献		
1) 作業療法リーディングの教科書/藤本一博・小川真寛・京極真編集/メジカルビュー社 2) 作業療法学概論 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト/長崎重信監修編集/メジカルビュー社 3) 作業療法実践の理論/ギャーリー・キールホフナー著/医学書院		
履修条件・留意事項等		
万が一、遠隔授業になるときは、スマートフォン・iPad・パソコンをMeetまたは、Zoomにつないで授業する。オンラインでもグループ発表・討論には積極的に参加できるようにするため、WiFi環境やプロバイダ契約等を整えること。自宅環境がリアルタイムオンライン授業に参加できない状況の時は、コロナ禍でも通学し学内のパソコンから授業参加することになるので注意！！		
備考欄		
・授業の順番は変わることがあるので了解してください。 ・課題の提出が期限から遅れるときは減点します。		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 基礎作業療法学					
科目名		作業分析学実習Ⅱ				ナンバリング	3415
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	実習	単位	1
担当教員	金 京室、渡辺 明日香、白戸 力弥、佐々木 修一						
授業の位置づけ							
作業療法学科のディプロマポリシーである「作業療法を実践するために必要な基本的知識および知識を身につけている(知識・技能)」、「作業療法学を考究し発展させるために必要な基本的知識を身につけている(知識・技能)」ことと関係がしている科目である。特に、「作業療法理論に基づき、生活行為の向上について、対象者の自律性と個別性を尊重できる」ことと深く関係している科目である。							
授業の概要							
作業療法の治療場面で用いられている作業活動を実際に体験し、手順や種目の特性、心身機能との関係について理解する。障害を持った方への作業導入時の段階付けや道具の工夫、配慮すべき点やリスクマネジメントについて学ぶ。							
到達目標							
・各作業種目について、実施手順や道具の使用方法、注意点などを説明できる。 ・各作業種目の分析を通して、作業活動と心身機能との関係や治療的意味・効果について説明できる。 ・作業種目の特性や疾患に応じた対象者への作業の工夫、段階付け、リスクマネジメントを理解し、企画・立案・実行ができる。							
授業の方法							
実習での体験をもとに作業分析を行う。種目によっては、グループワークを実施し、プレゼンテーションを行う。プレゼンテーション内容について、教員から適宜、フィードバックを行う。							
ICT活用							
農耕・園芸でClassroomに見回り時の写真や観察結果・感想を投稿することにより、畑の様子をクラスや教員で共有し、作物を共に育てる雰囲気を楽しめるようにする。							
実務経験のある教員の教育内容							

革細工以外の種目においては、作業療法の臨床において、多様な作業を活用した経験がある教員が、作業の重要性を体験的に教授する。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対し、授業中に口頭や実演にてフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション・革細工① ・作業分析を理解し、簡単な作業の分析シートを記載する。 ・革の特性を理解し、刻印を打つなど体験しながら作業分析を行う。	革細工で使用する道具について、予習をしておくこと(90分)	革細工で使用する道具についてまとめておくこと(90分)
担当教員	金 京室、佐々木 修一		
第2回	革細工② ・革の特性を理解し、刻印を打つなど体験しながら作業分析を行う。	必要な材料、道具、問題になると予測される工程の抽出、注意点、予測されるリスクについて検討すること(90分)	作業分析レポートを作成すること(90分)
担当教員	佐々木 修一		
第3回	革細工③ ・革の特性を理解し、刻印を打つなど体験しながら作業分析を行う。	必要な材料、道具、問題になると予測される工程の抽出、注意点、予測されるリスクについて検討すること(90分)	作業分析レポートを作成し、提出すること。(90分)
担当教員	佐々木 修一		
第4回	農耕・園芸① ①オリエンテーション ②肥料入れ畝づくり黒マルチ（ジョブコーチ市丸と就労支援B型メンバー紹介）	農耕・園芸に必要な器具、道具、場所の準備作業と確認。(90分)	オリエンテーション時の資料・見回り当番表を見て、今後の作業の見通しをもつ。土作りについてのクイズに答える。(90分)
担当教員	渡辺 明日香		

第5回	身体と精神の関連を利用した心身アプローチ①(ゲスト・杉本) ・ボディワーク(リラクゼーションストレッチ、ピラティス)や日本の踊りにより身体-認知-感情の連関を体感し作業分析を行う。	ボディワークとリラクゼーションについて予習をしておくこと(90分)	身体と精神の関連を利用した心身アプローチに関するレポート課題を提出する(90分)
担当教員	渡辺 明日香		
第6回	農耕・園芸② ・植え付け 植付け作物・植付法の理解の後、作業する(ジョブコーチ市丸と就労支援B型メンバーとの共同作業)	畑見回りの目的・方法の理解(Classroomに写真と観察・感想を投稿)(90分)	植付後の畑の見回りを当番表に従ってペアで行う。写真と観察・感想の投稿(90分)
担当教員	渡辺 明日香		
第7回	農耕・園芸③ ・農作業(ジョブコーチ市丸と就労支援B型メンバーとの共同作業)	畑の見回りを当番ペアで行う。写真と観察・感想の投稿(90分)	畑の見回りを当番表に従ってペアで行う。写真と観察・感想の投稿(90分)
担当教員	渡辺 明日香		
第8回	身体と精神の関連を利用した心身アプローチ② ・リラクゼーションストレッチの指導を体験、指導力の分析をする。 ・レクレーション活動を体験し、分析する。	リラクゼーションストレッチの方法を復習しリーダー役の準備をする(90分)	身体と精神の関連を利用した心身アプローチに関するレポート課題を提出する(90分)
担当教員	渡辺 明日香、金 京室		
第9回	農耕・園芸④ ・収穫保存(ジョブコーチ市丸と就労支援B型メンバーとの共同作業)地域高齢者との交流(地域包括支援センターの協力)	畑の見回りを当番ペアで行う。写真と観察・感想の投稿(90分)	畑の見回りを当番表に従ってペアで行う。写真と観察・感想の投稿(90分)
担当教員	渡辺 明日香		
第10回	作業分析 ・これまで行った作業活動を筋電計を用いて計測し、作業と身体活動の関係を分析し考察する。	筋電計について、おおまかに予習をしておくこと(90分)	授業内容についてまとめておくこと(90分)
担当教員	白戸 力弥		

第11回	ADL活動の分析 ・調理や掃除などADL場面で行う活動を計画し、実践・分析する。 ・片麻痺など機能障害を想定し、各活動における援助・指導を行うことができる	ADL活動が持つ作業の特性について予習しておくこと(90分)	活動の分析や機能障害に対する援助・指導方法を復習すること(90分)
担当教員	金 京室		
第12回	農耕・園芸⑤ ・調理と試食と交流、後片付け（ジョブコーチ市丸と就労支援B型メンバーとの共同作業） 地域高齢者との交流(地域包括支援センターの協力)	保管した作物を当番ペアで調理場に運ぶ。調理用具の準備(90分)	農耕・園芸の作業分析、作業療法での利用の実情、今後の活用のアイデアなどをテーマにレポートを作成(90分)
担当教員	渡辺 明日香		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート・プレゼンテーション内容(40%) 授業参加態度(30%) 事前事後学習の遂行状況およびClassroomへの投稿(30%)	
その他	0		
教科書			
1. 作業-その治療的応用 日本作業療法士協会編 協同医書出版社 2. ひとと作業・作業活動 作業の地をとき技を育む 山根寛著 三輪書店			
参考文献			
Classroomに配布する資料			
履修条件・留意事項等			

特別な理由がない限り欠席は認めない。
テーマに応じて作業分析レポートを作成する。
農耕・園芸の事前事後学習では、畑の見回り作業を当番表に従いペアで実施する。

備考欄

農耕・園芸作業を通して就労支援B型利用者とそのジョブコーチや地域在住高齢者、地域包括支援センタースタッフと交流する機会があるので、貴重な時間を楽しみつつ信頼関係を育むこと。

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科	人間科学部 作業療法学科						
区分	専門科目 基礎作業療法学						
科目名	作業療法研究法					ナンバリング	3412
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	大川 浩子、金谷 匡紘						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「作業療法学を考究し発展させるために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」と特に関係する科目である。また、「作業療法を実践するために必要な文章力・対人コミュニケーションの技能・プレゼンテーションとディスカッションの基本的技能を身につけている。(思考・判断・表現)」根拠に基づく作業療法(EBOT)の実践のために、問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、論理的な解決法を見いだせる。(思考・判断・表現)」とも関係する科目である。「作業療法研究法演習Ⅰ」「作業療法研究法演習Ⅱ」の基礎となる科目である。							
授業の概要							
作業療法における研究の必要性を理解し、研究を行う際に必要な知識(研究の種類と方法、研究論文の構成、計画書の作成法など)を身に付ける。 さらに、研究疑問の発展、文献検索と読み込み、研究計画書の作成と口頭発表に向けた研究導入プロセスを理解し、作業療法に関する研究を実践するための基礎能力を養成する。							
到達目標							
1.作業療法における研究の必要性を理解し、卒業研究を行う際に必要な研究の種類と方法、計画書の書き方、発表方法を獲得する。 2.論文の研究疑問・仮説の有無・研究デザインやタイプ・論文の構成・方法や分析法などを正しく把握して説明することができる。 3.論文の内容を理解し、自分の考え方と対応させて感想や考察を述べることができる。 4.自分の研究疑問を発展させ、研究計画書を作成できる。							
授業の方法							
教科書や配布資料を使用しての講義および、グループワークや演習を行う。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして授業内課題及び小テストは後日コメントをします。また、確認テストは実施後、その場でフィードバックします。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション(本科目の概要と作業療法研究(卒業研究)について)及び研究の基礎知識①:研究の流れについて 今後、実際に進める研究の基本的な流れについて学ぶ	本科目及び「作業療法研究法演習Ⅰ」「作業療法研究法演習Ⅱ」のシラバスについて目を通すこと(15分)	卒業研究のために必要な工程について再度確認すること(30分)
担当教員	大川 浩子		
第2回	研究の基礎知識②:研究デザイン(研究設計)にはどのようなものがあるかを知る 研究の目的による類型、手法による類型を学ぶ	作業療法研究法 P62～「研究の類型」について目を通すこと(30分)	学んだ研究デザインについてまとめること(15分)
担当教員	大川 浩子		
第3回	演習①:文献検索法:J-DreamⅢ 医学中央雑誌など 図書館のパソコンを使い文献検索方法を学ぶ。また実際に検索及び文献収集を体験し習得する ※日程を図書館と調整し、決定後、以下の日程が変更されることがあります	作業療法研究法 P69～「文献検索」について目を通しておくこと(15分)	自分の関心がある作業療法に関連するキーワードを用いて、実際にデータベースを利用して文献を検索すること(30分)
担当教員	金谷 匡紘		
第4回	各種の研究手法①:文献レビュー・文献研究と調査研究 文献レビュー及び文献研究、調査研究の目的及び手法について学ぶ	作業療法研究法 P69～「文献レビュー」「文献研究」「調査研究」について目を通すこと(15分)	学んだ各手法についてまとめること(30分)
担当教員	大川 浩子		

第5回	各種の研究手法②:実験研究 ・実験研究の特徴を学ぶ ・実験の統制方法を学ぶ ・実験研究の種類(デザイン)を学ぶ。	教科書の作業療法研究法 P98 ～「実験研究」について目を通すこと(15分)	実験研究の手法についてまとめること(30分)
担当教員	金谷 匡紘		
第6回	各種の研究手法③:事例研究と質的研究 質的研究の種類と手法、事例研究においては、研究倫理で重要な個人情報保護についても学ぶ	教科書の作業療法研究法 P109 ～「事例研究」P201「質的研究」について目を通すこと(15分)	学んだ各手法についてまとめること(30分)
担当教員	大川 浩子		
第7回	研究の基礎知識③:統計を用いて研究データを分析する ① なぜ統計を用いるのかを理解し、統計の基礎知識と手順を理解する。	教科書の作業療法研究法 P179 ～「統計に関する知識」について確認しておくこと(15分)	自分の関心ある文献を検索し、統計がどのように用いられているか確認すること(30分)
担当教員	金谷 匡紘		
第8回	研究の基礎知識④:統計を用いて研究データを分析する ② 臨床場面でのデータを基に、統計手法による分析について学ぶ。	統計の基本的な検定について確認すること(15分)	Excelで実施可能な検定について、実際の取り組むこと(30分)
担当教員	金谷 匡紘		
第9回	演習②:研究疑問と文献リストの作成 研究疑問を書き出し、卒業研究として取り組みたい研究疑問を決定し、文献リストを作る	自分の研究疑問について複数あげておくこと(15分)	完成させた文献リストにある文献について目を通すこと(30分)
担当教員	金谷 匡紘		
第10回	演習③:論文の分析－調査研究 研究の必要生、研究法、研究デザインを把握する。論文の構成などについて理解する	自分の関心がある調査研究の文献を1つ以上読むこと(15分)	本日学んだ論文の構成について、確認すること(30分)
担当教員	大川 浩子		

第11回	演習④:論文の分析－実験研究 統計解析法を理解する。論文の長所・短所などについて 考え、感想を話し合う	自分の関心がある実験研究の 文献を1つ以上読み、統計がど のように用いられているか確認 すること(30分)	本日学んだ論文の構成につい て、確認すること(15分)
担当教員	金谷 匡紘		
第12回	演習⑤:論文の分析－事例研究 研究目的, 事例紹介, 評価, 実施計画, 介入経過など論文 の構成について理解する	自分の関心がある事例研究の 文献を1つ以上読むこと(30分)	本日学んだ論文の構成につい て、確認すること(15分)
担当教員	大川 浩子		
第13回	研究の基礎知識⑤:論文の構成と表し方と効果的な図表 論文の構成について学習する。結果データの図表による 効果的な見せ方の方法や種類について理解する	自分が今まで集めた文献に、ど んな図表のが使われているか、 また用い方について確認するこ と(15分)	Excelで作成可能な図表につい て確認すること(30分)
担当教員	金谷 匡紘		
第14回	演習⑥:研究テーマの決定と作成 文献リストに挙げた文献を読み、文献内容についてメモを 作成し、研究テーマを決定する。更に、卒業研究で取り組 む研究計画書を作成する。	7回目の事後学習で集めた文献 に目を通し、内容を理解すること (15分)	A4用紙1枚程度に研究計画書 をまとめること(30分)
担当教員	大川 浩子		
第15回	研究法のまとめ 1～14回目までに学習した研究法や検定等について小テ スト等を用いて確認する。	本講義1～14回目について確認 する(30分)	15回目の講義を踏まえ、研究法 及び検定について確認する(15 分)
担当教員	大川 浩子、金谷 匡紘		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・ 参加度・出席態度等)	100	確認テスト(50%)、授業内課題(40%)、授業態度(小テストを含む)(10%)	

その他	0	
教科書		
作業療法研究法/山田孝編/医学書院 今日から使えるリハビリテーションのための統計学/高橋仁美/医歯薬出版		
参考文献		
作業療法士のための研究法入門/鎌倉矩子/三輪書店		
履修条件・留意事項等		
他の学生に迷惑をかける授業態度(私語、携帯電話等)は厳禁。授業内容により、変則講義となることがあるので注意すること。 新型コロナウイルスの蔓延等によりグループワーク等を別の方法に振り替える場合は、別途、詳細を説明します。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 作業療法評価学					
科目名		作業療法評価学				ナンバリング	3440
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	大坂 隆介、大川 浩子、金 京室、金谷 匡紘						
授業の位置づけ							
作業療法学科のディプロマポリシー「知識・技能」の「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。」を達成するための科目であり、作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけるために評価学を学ぶ。 解剖学、生理学を基に、作業療法対象者に対する評価法やその意義を理解する。							
授業の概要							
治療方法として作業療法は、標準化された、客観的な効果判定の方法を持つことにより、その機能を確立してきた。ここでは身体障害領域で用いられる作業療法評価の方法を学ぶ。							
到達目標							
作業療法における評価学の概念および作業療法課程について説明できる。作業療法の各種評価法について、具体的なイメージを持つことができ、それらについて説明できる。 1. バイタルサインの測定 2. 形態計測.3. 上肢機能検査.4. 反射検査.5. ICFの理解 6. 脳画像診断の手がかりとなる脳溝を同定できる. 7. 高次脳機能障害のリハビリテーションにおける評価法の列挙8.精神障害及び発達障害領域の評価法の列挙。9. 集団の評価の重要性の説明。 10. 職業リハビリテーションにおける評価法の列挙。11. ICFについて理解し、事例を通してその意義の説明。12.MTDLP開発の社会的背景とその構造を理解し、説明できる。							
授業の方法							
講義形態、時にグループワークおよび実技練習。							
ICT活用							
Google formを活用し、確認テストの実施。フィードバックを行う							
実務経験のある教員の教育内容							

大坂隆介:病院やクリニックなどの身体障害領域において作業療法士として5年以上勤務した経験を活かし, 評価学Ⅰの授業を行う。
 金谷匡紘:病院やクリニックなどの身体障害領域において作業療法士として5年以上勤務した経験を活かし, 授業を行う。
 大川浩子:病院やクリニックなどの精神障害領域において作業療法士として5年以上勤務した経験を活かし, 授業を行う。
 金京室:病院やクリニックなどの発達障害領域において作業療法士として5年以上勤務した経験を活かし, 授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業内にフィードバックしていきます。またレポートを用いて個別に対応します

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	評価学の概要および基礎を学ぶ 大坂	作業療法評価の基礎について 予習する 90分	作業療法評価の基礎について 復習する 90分
担当教員			
第2回	評価学の基礎を学ぶ(特にICF分類について学ぶ)大坂	ICF分類について予習する 90分	ICF分類について復習する 90分
担当教員			
第3回	具体的な評価方法(意識の評価, バイタルサインの測定)を学ぶ 形態計測について学ぶ 大坂	バイタルサイン 形態計測について 予習する 90分	バイタルサイン 形態計測について 復習する 90分
担当教員			
第4回	ICF分類についてグループワーク(事例検討)および発表。 大坂	ICF分類について予習する 90分	ICF分類について復習する 90分
担当教員			

第5回	具体的な評価方法(上肢機能検査, STEF)を学ぶ 大坂	上肢機能検査について予習する 90分	上肢機能検査について復習する 90分
担当教員			
第6回	具体的な評価方法(摂食・嚥下)を学ぶ 大坂	摂食・嚥下について予習する 90分	摂食・嚥下について復習する 90分
担当教員			
第7回	具体的な評価方法(反射検査)を学ぶ 大坂	深部腱反射および病的反射について予習する 90分	深部腱反射および病的反射について復習する 90分
担当教員			
第8回	国際生活機能分類(ICF)に基づく作業療法評価について(金谷)	ICF分類について確認して, 事例に適応できるように予習する 90分	ICF分類について確認して, 事例に適応できるように復習する 90分
担当教員			
第9回	生活行為向上マネジメントについて(金谷)	前回の講義のICFとその概要について復習する。(90分)	生活行為向上マネジメントの概要と構造について復習する。(90分)
担当教員			
第10回	脳画像診断における脳溝の同定について(金)	脳解剖について復習すること。(90分)	脳溝の同定方法について復習すること。(90分)
担当教員			

第11回	高次脳機能障害の評価について(金)	高次脳機能障害について調べる。(90分)	高次脳機能障害の評価法について学んだことをまとめる。(90分)
担当教員			
第12回	精神障害及び発達障害領域における作業療法評価:外観と特色(大川)精神障害及び発達障害領域で用いられる評価の概要について学ぶ。また、精神障害・発達障害領域における障害の捉え方をICFにあてはめて考え、まとめる。(大川)	教科書P456～499及びP569～632について目を通す。(90分)	精神障害及び発達障害領域の評価法で興味を持った評価法についてまとめる。(90分)
担当教員			
第13回	面接法・観察法:全般的な枠組み・留意点、プロセスレコード(大川) 面接法・観察法の概要と留意点を学ぶ。また、プロセスレコードを実際を書く	プロセスレコードが書けるように、Webや書籍等で目的・記入方法を調べまとめること(60分)	13回目の講義で発表するためのレジメを作成する。(120分)
担当教員			
第14回	精神・発達領域の評価①:代表的な検査について(大川) 代表的な検査についてまとめたものをグループで発表する。	レジメを確認し発表準備をする。(60分)	発表で取り上げられた検査について、表を作成し、まとめる。(120分)
担当教員			
第15回	精神・発達領域の評価②: 集団の評価と職業リハビリテーションの評価(大川) 精神・発達領域で用いられる集団に関する評価を学ぶ。また、職業リハビリテーションで用いられている代表的な評価方法を学ぶ。	教科書P498～504、P633～646について目を通す(60分)。	課題レポートを作成する(120分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題への取り組み(レポート提出) および授業内課題にて100%	

その他	0	なし
教科書		
作業療法評価学第3版 能登真一ほか、医学書院		
参考文献		
必要に応じて紹介します		
履修条件・留意事項等		
休まず出席すること		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 作業療法評価学					
科目名		作業療法評価学実習Ⅱ				ナンバリング	3447
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	実習	単位	1
担当教員	金子 翔拓、白戸 力弥、金 京室、金谷 匡紘、大坂 隆介						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「知識・技能」の「作業療法評価学・作業療法治療学の基本的技能を身につけている。(知識・技能)」ための科目である。 臨床実習Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの基礎となる。							
授業の概要							
作業療法評価学Ⅰ・Ⅱ、作業療法評価学実習Ⅰおよび作業療法評価学演習を踏まえ、実際に臨床場面で行われている各種の検査・測定に関する評価技法について、若年健康者を被験者とした実習を行う。身体機能評価である脳神経検査、感覚検査、協調性検査、腱反射等の測定意義を理解し、手技を学ぶ。また、学外施設において患者様または利用者様を対象に検査実技を行う。							
到達目標							
・作業療法における身体機能面の評価方法が実施できるようになる ・評価の方法、目的を理解し疾患や障害と結び付けることができるようになる ・評価実習で用いる検査・測定方法を理解し、実施できるようになる ・Basic OSCEにより模擬患者に対して適切に評価手技を実施できるようになる							
授業の方法							
スライドを用いた講義、デモンストレーション後に実技を行う。また、学外施設において検査実習を2回実施する。							
ICT活用							
Google formを活用し、確認テストを実施し、自主学習を促す。							
実務経験のある教員の教育内容							

全ての教員が本科目に関わる実務経験を有している(臨床実践5年以上)。

課題に対するフィードバックの方法

Basic OSCE後にフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	コースガイド 徒手筋力検査① 頸部・体幹筋の筋力検査を実習する。(金子)	教科書(新徒手筋力検査法) p 2-p79を予習すること。体幹・頸部の筋について調べておくこと(60分)。	検査手技を復習すること(60分)。
担当教員			
第2回	徒手筋力検査② 上肢(肩周囲筋・肘関節屈筋群および伸筋群)の筋力検査を実習する。(白戸)	教科書(新徒手筋力検査法)p82-p148を予習すること。上肢の筋群について、特に起始・停止を予習すること(60分)。	検査手技を復習すること(60分)。
担当教員			
第3回	徒手筋力検査③ 上肢(前腕回内外・手関節屈筋群および伸筋群)の筋力検査を実習する。(白戸)	教科書(新徒手筋力検査法)p149-p166を予習すること。上肢の筋群について、特に起始・停止を予習すること。60分	検査手技を復習すること。60分
担当教員			
第4回	徒手筋力検査④ 手指の運動に関わる筋群の検査法について実習する。(白戸)	教科書(新徒手筋力検査法)p167-p203を予習すること。上肢の筋群について、特に起始・停止を予習すること。60分	検査手技を復習すること。60分
担当教員			

第5回	徒手筋力検査⑤ 下肢筋群の筋力検査を実習する。(金子)	教科書(新徒手筋力検査法)p206-p279を予習すること。下肢の筋群について、特に起始・停止を予習すること。60分	検査手技を復習すること。60分
担当教員			
第6回	神経学的検査法① 脳神経領域の検査を実習する。(金谷)	教科書(作業療法評価学第3版)p168-p183を予習すること。60分	検査手技を復習すること。60分
担当教員			
第7回	神経学的検査法① 脳神経領域の検査を実習する。(金谷)	教科書(作業療法評価学第3版)p168-p183を予習すること。60分	検査手技を復習すること。60分
担当教員			
第8回	基本動作① 発達学的側面から姿勢反射と中枢機能について学び検査法を実習する。(金谷)	教科書(作業療法評価学第3版)p138-p150を予習すること。60分	検査手技を復習すること。60分
担当教員			
第9回	基本動作② 神経発達学的側面から、原始反射と出現時の病的意義を論じる。(金谷)	教科書(作業療法評価学第3版)p138-p150を予習すること。60分	検査手技を復習すること。60分
担当教員			
第10回	学外検査実習①(金・大坂) 学外の近隣施設において、4-5名の小グループに分かれ、対象者に対しROM、MMT、Br.stage、反射検査などの検査実習を行う。 施設の都合により、詳細な日程は別途連絡する。	ROM、MMT、Br.stage、反射検査等について実技練習を行うこと。60分	検査実習の結果をレポートにまとめ提出すること。60分
担当教員			

第11回	学外検査実習②(金・大坂) 学外の近隣施設において、4－5名の小グループに分かれ、対象者に対しROM、MMT、Br.stage、反射検査などの検査実習を行う。 施設の都合により、詳細な日程は別途連絡する。	ROM、MMT、Br.stage、反射検査等について実技練習を行うこと。60分	検査実習の結果をレポートにまとめ提出すること。60分
担当教員			
第12回	Basic-OSCEを実施する。詳細な日程は別途連絡する。金子	徒手筋力検査を全般的に復習すること。60分	反省点をふまえ、実技の手続きについてふりかえること。60分
担当教員			
第13回	Basic-OSCEを実施する。詳細な日程は別途連絡する。金子	片麻痺とその評価について全般的に復習すること 60分	反省点をふまえ、実技の手続きについてふりかえること。60分
担当教員			
第14回	Basic-OSCEを実施する。詳細な日程は別途連絡する。大坂	徒手筋力検査を全般的に復習すること。60分	反省点をふまえ、実技の手続きについてふりかえること。60分
担当教員			
第15回	Basic-OSCEを実施する。詳細な日程は別途連絡する。金子	徒手筋力検査を全般的に復習すること。60分	反省点をふまえ、実技の手続きについてふりかえること。60分
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業態度, レポート, 実技試験(Basic OSCE)を総合的に判断する。	

その他	0	特になし
教科書		
新・徒手筋力検査法 原著第10版／協同医書出版社		
参考文献		
随時紹介します		
履修条件・留意事項等		
原則、欠席を認めない。恵庭近郊で行う検査実習施設への交通費は学生負担である。検査実習を休んだ場合、代替実習はできない。ケーシーを着用すること。また、B-OSCEに合格しなければ単位認定しない。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 作業療法治療学					
科目名		高次脳機能障害作業療法治療学演習				ナンバリング	3516
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	金谷 匡紘						
授業の位置づけ							
作業療法学科のディプロマポリシー「作業療法学を考究し発展させるために必要な基本的知識を身につけている(知識・技能)」を達成するための科目であり、高次脳機能障害作業療法治療学の応用となる。							
授業の概要							
高次脳機能障害作業療法治療学で学んだ知識を踏まえ評価、介入に必要な発展的な学習を行う。 各種高次脳機能障害に関する評価方法を体験し、実学習を行う。							
到達目標							
各種高次脳機能障害の評価方法を理解し、マニュアルを参考に自身にて実施することができる。 脳画像を確認し、損傷部位と推定される症状について述べることができる。							
授業の方法							
教科書と配布印刷物を用いた用いた座学に加え、神経学的検査・評価方法については、習熟できるように実践演習を行う。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

金谷匡紘はリハビリテーション病院にて高次脳機能障害患者を対象としたリハビリテーションを実践した経験を持ち、実際の臨床現場での経験も踏まえた講義を展開する。

課題に対するフィードバックの方法

各回毎に理解度についての確認を行い、理解が不足している内容に対して講義内にフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	高次脳機能障害の基礎知識の復習 高次脳機能障害に関連する解剖学等について画像所見を交えながら復習を行う。	高次脳機能障害学ならびに解剖学について講義資料や教科書を参考に復習する(15分)	講義内容について配布資料を参考に復習を行う(30分)
担当教員			
第2回	視空間認知障害の評価 BITやコース立方体組み合わせテスト等に代表される視空間認知障害の評価バッテリーについての実施方法とその解釈について学習する。	高次脳機能障害学の講義の該当する箇所の資料を復習する(15分)	講義内容について配布資料を参考に復習を行う(30分)
担当教員			
第3回	注意機能の評価 CATやTMT等の評価バッテリーやMARS等の観察評価についての実施方法とその解釈について学習する。	高次脳機能障害学の講義の該当する箇所の資料を復習する(15分)	講義内容について配布資料を参考に復習を行う(30分)
担当教員			
第4回	遂行機能の評価 WCSTやBADs等の評価バッテリーについて実施方法とその解釈について学習する。	高次脳機能障害学の講義の該当する箇所の資料を復習する(15分)	講義内容について配布資料を参考に復習を行う(30分)
担当教員			

第5回	失語・失書・失読の評価 標準失語症検査等の評価バッテリーについて実施方法とその解釈について学習する。	高次脳機能障害学の講義の該当する箇所の資料を復習する(15分)	講義内容について配布資料を参考に復習を行う(30分)
担当教員			
第6回	失行・行為・行動の評価 標準高次動作性検査等の評価バッテリーについて実施方法とその解釈について学習する。	高次脳機能障害学の講義の該当する箇所の資料を復習する(15分)	講義内容について配布資料を参考に復習を行う(30分)
担当教員			
第7回	失認の評価 標準高次視知覚検査等の評価バッテリーについて実施方法とその解釈について学習する。	高次脳機能障害学の講義の該当する箇所の資料を復習する(15分)	講義内容について配布資料を参考に復習を行う(30分)
担当教員			
第8回	記憶・認知症の評価 WMS-R、RBMT、三宅式記銘力検査、ベントン視覚記銘検査等の評価バッテリーや観察評価について実施方法とその解釈について学習する。	高次脳機能障害学の講義の該当する箇所の資料を復習する(15分)	講義内容について配布資料を参考に復習を行う(30分)
担当教員			
第9回	全般的知能の評価① HDS-RやMMSE、WAIS等の評価バッテリーについて実施方法とその解釈について学習する。	高次脳機能障害学の講義の該当する箇所の資料を復習する(15分)	講義内容について配布資料を参考に復習を行う(30分)
担当教員			
第10回	全般的知能の評価② HDS-RやMMSE、WAIS等の評価バッテリーについて実施方法とその解釈について学習する。	高次脳機能障害学の講義の該当する箇所の資料を復習する(15分)	講義内容について配布資料を参考に復習を行う(30分)
担当教員			

第11回	全般的知能の評価③ HDS-RやMMSE、WAIS等の評価バッテリーについて実施方法とその解釈について学習する。	高次脳機能障害学の講義の該当する箇所の資料を復習する(15分)	講義内容について配布資料を参考に復習を行う(30分)
担当教員			
第12回	脳画像のみかた① 脳画像のみかたを学び、画像所見と高次脳機能障害の関連について学習する。	高次脳機能障害学の講義の該当する箇所の資料を復習する(15分)	講義内容について配布資料を参考に復習を行う(30分)
担当教員			
第13回	脳画像のみかた② 脳画像のみかたを学び、画像所見と高次脳機能障害の関連について学習する。	高次脳機能障害学の講義の該当する箇所の資料を復習する(15分)	講義内容について配布資料を参考に復習を行う(30分)
担当教員			
第14回	脳画像のみかた③ 脳画像のみかたを学び、画像所見と高次脳機能障害の関連について学習する。	高次脳機能障害学の講義の該当する箇所の資料を復習する(15分)	講義内容について配布資料を参考に復習を行う(30分)
担当教員			
第15回	学習のまとめと確認テスト これまでに学習した内容についてまとめを行い、理解度確認のテストを行う。テストについては解説を行う。	これまでに学習した内容について復習を行う(15分)	確認テストの内容について復習を行う(30分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	確認テスト(50%)、授業への参加度(50%)	

その他	0	
教科書		
CD-ROMでレッスン 脳画像の読み方 第2版／石原健司 著／医歯薬出版 高次脳機能障害学 第3版／石合純夫 著／医歯薬出版 岡庭豊/病気がみえるVol.7 脳・神経/メディックメディア		
参考文献		
リハに役立つ脳画像改訂第2版／酒向正春／メジカルビュー社		
履修条件・留意事項等		
演習には積極的に取り組むこと。		
備考欄		
講義開始より10分以上遅れた際は遅刻として扱う. 30分以上の遅れは欠席扱いとする. 講義終了時刻よりも10分以上早く退席する場合を早退とし, 30分以上前に退席する場合は欠席とする.		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 作業療法治療学					
科目名		高齢期作業療法治療学演習				ナンバリング	3524
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	玉 珍						
授業の位置づけ							
作業療法理論に基づき、生活行為の向上について、対象者の自律性と個別性を尊重できる(関心・意欲・態度)。2年後期の高齢期治療学で学んだ知識をもとに、実際に高齢期の疾患の事例検討や施設に入所している高齢者との体験授業を通して、より臨床実習に向けての具体的なイメージができる							
授業の概要							
高齢期の作業療法介入について、必要な知識と技術を学習する。 実際に老健施設やグループホームなどを利用している高齢者と面接・観察による評価やダイバージョナルセラピーによるレクリエーションを企画・実施する。							
到達目標							
症例検討・グループワークを通して、 1.高齢期作業療法における初期評価、統合と解釈ができる。 2.作業療法の目標を立てて、プログラムの立案までの一連の流れを理解する。 3.学外施設にて個別に高齢者との面談や日常生活の観察などを行い、コミュニケーション方法を獲得することや生活状況をまとめることができる							
授業の方法							
パワーポイント用いて講義形式で進める。 グループで事例検討を行い、検討内容を発表する。 学外の施設にて体験型授業にする。発表内容に関してその場でフィードバックを行い、理解度を深める。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

科目担当の玉珍は、リハビリテーション病院において、作業療法士としての勤務経験があり、高齢者が特有とする疾患への作業療法評価、介入について幅広く知識を有している。これらの経験を活かして学生の指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

レポート及び体験学習のプレゼンへのフィードバックを行います。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 高齢期脳血管障害への作業療法評価について学ぶ	片麻痺患者への作業療法について予習しておく(20分)	高齢期片麻痺の作業療法評価について復習すること(25分)
担当教員			
第2回	高齢期脳血管障害への作業療法介入方法について学ぶ	片麻痺患者への作業療法評価と介入についてを予習しておく(20分)	高齢者の脳血管障害症例をまとめる(25分)
担当教員			
第3回	寝たきり高齢者の作業療法評価・介入方法について学ぶ	寝たきりとは何か、廃用症候群について予習すること(20分)	寝たきりの評価・介入内容の復習をすること(25分)
担当教員			
第4回	高齢者における環境(物的・人的)へのアプローチによる作業療法実践について学ぶ	住宅環境や家族へのアプローチについて予習しておく(20分)	事例の環境へのアプローチを考え、まとめる(25分)
担当教員			

第5回	高齢期神経内科疾患の作業療法評価・日常生活動作獲得に向けた作業療法実践を学ぶ	日常生活動作とは何か, それぞれについて評価方法を予習しておくこと (20分)	事例を通して日常生活動作評価・治療プログラムを立てる (25分)
担当教員			
第6回	高齢期神経内科疾患への作業療法介入について日常生活動作獲得へ向けた作業療法実践を学ぶ	日常生活動作とは何か, それぞれについて評価方法を予習しておくこと (20分)	事例を通して日常生活動作評価・治療プログラムを立てる (25分)
担当教員			
第7回	ダイバーショナルセラピーについて学び体験する(アセスメント、インプリケーション、プランニング、エヴァリュエーション)	ダイバーショナルセラピーについて予習しておくこと。(20分)	ダイバーショナルセラピーについて復習をすること。(25分)
担当教員			
第8回	ダイバーショナルセラピーについて学び体験する(アセスメント、インプリケーション、プランニング、エヴァリュエーション)	ダイバーショナルセラピーについて予習しておくこと。(20分)	ダイバーショナルセラピーについて復習すること。(25分)
担当教員			
第9回	学外授業説明 認知症高齢者のコミュニケーション, 接し方について	認知症について予習しておく (20分)	認知症高齢者とのコミュニケーション方法, 接し方について復習する (25分)
担当教員			
第10回	学外授業 高齢者事例検討 ① 入所・通所施設、グループホームを利用する高齢者の生活状況を理解する。面接と日常生活活動の観察を評価体験することで、高齢者の生活の状況を学ぶ	認知症高齢者とのコミュニケーション, 接し方の復習しておく (20分)	面接・観察内容をまとめる (25分)
担当教員			

第11回	学外授業 高齢者事例検討 ① 入所・通所施設、グループホームを利用する高齢者の生活状況を理解する。面接と日常生活活動の観察を評価体験することで、高齢者の生活の状況を学ぶ	認知症高齢者とのコミュニケーション、接し方の復習しておく (20分)	面接・観察内容をまとめる (25分)
担当教員			
第12回	学外授業 高齢者事例検討 ② 入所・通所施設 グループホームを利用する高齢者の生活状況のまとめ	前回のケースをまとめ、必要な情報収集をするための工夫を考えておく (20分)	情報収集のまとめ (25分)
担当教員			
第13回	学外授業 高齢者事例検討 ② 入所・通所施設 グループホームを利用する高齢者の生活状況のまとめ	前回のケースをまとめ、必要な情報収集をするための工夫を考えておく	情報収集のまとめ (25分)
担当教員			
第14回	学外授業内容発表・フィードバック	学外見学・体験内容のまとめ (20分)	レポート作成 (25分)
担当教員			
第15回	学外授業内容発表・フィードバック	学外見学・体験内容のまとめ (20分)	レポート作成 (25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合 (%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題・レポート60%、グループ学習・プレゼンテーション40%	

その他	0	なし
教科書		
高齢期作業療法学(第3版)/松房利憲・小川恵子/ 医学書院		
参考文献		
認知症を持つ人への作業療法アプローチ ―視点・プロセス・理論― 宮口英樹/メジカルビュー社 ダイバージョナルセラピー 芹澤隆子/三輪書店		
履修条件・留意事項等		
学外授業の際には施設の都合により日程変更や時間延長の場合もあります。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 作業療法治療学					
科目名		身体障害作業療法治療学実習				ナンバリング	3512
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	実習	単位	1
担当教員	白戸 力弥、金 京室、金谷 匡紘、大坂 隆介						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「作業療法理論に基づき、生活行為の向上について、対象者の自律性と個別性を尊重できる(関心・意欲・態度)」ことと特に関係がある科目である。また、「根拠に基づく作業療法(EBOT)の実践のために、問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、論理的な解決法を見いだせる(思考・判断・表現)」こととも関係する。これまで履修した身体障害領域の作業療法に関する専門科目の総まとめとなり、臨床実習Ⅱ、総合臨床実習Ⅰ・Ⅱに繋がる科目である。							
授業の概要							
身体障害作業療法で実践される治療技法および事例検討についてグループワークで実習する。							
到達目標							
①主に運動器障害の疾患の概要、治療、アプローチ法および実践について説明ができる。②医療画像の基本的な診方ができ、病態と結びつけることができる。③頸髄損傷の病態および作業療法の介入について説明ができる。④筋萎縮性側索硬化症(ALS)の病態と作業療法のアプローチ法について説明ができる。⑤スプリント療法の原理に基づき、基本的なスプリントが作製できる。⑦これまで学習した作業療法治療学をもとに事例検討を行い、評価、ゴール設定、治療計画およびその意義について説明し、レポートを完成させ、プレゼンテーションができる。							
授業の方法							
パワーポイントと配布印刷物を用いての講義、実習、グループディスカッションおよび学生によるプレゼンテーション形式の授業を行う。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

科目筆頭教員は15年以上の作業療法士の実務経験があり、身体障害作業療法について幅広い知識・経験を有している。またその他の教員も実務経験を有しており、これらの経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

グループディスカッションおよび学生によるプレゼンテーションに対して、フィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	頸髄損傷の作業療法の基本的考え方とその実際 頸髄損傷の病態、評価法、介入法を学ぶ。	頸髄損傷の病態・医学的治療について予習しておくこと。(90分)	配布資料を復習しておくこと。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第2回	頸髄損傷のADLとその介入法とその実際 各高位残存レベルに応じた具体的介入法を学ぶ。	前回の授業の復習を行うこと。(90分)	配布資料を復習しておくこと。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第3回	運動器疾患に必要な画像の診方 レントゲン、CT、MRI、超音波画像を中心に講義する。	教科書1の2-36頁、38-54頁を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習しておくこと。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第4回	末梢神経障害の作業療法、治療の基本と実際 末梢神経障害の病態、作業療法アプローチの講義とグループワークを行う。	教科書1の2-36頁、38-54頁を読んでおくこと。(90分)	配布資料、グループワークでディスカッションした内容を復習しておくこと。(90分)
担当教員	白戸 力弥		

第5回	悪性腫瘍に対する治療と作業療法のアプローチの実際を学ぶ。 スプリントの作製方法の基本を学ぶ。	悪性腫瘍の病態について予習しておくこと。教科書1の2-9を読んでおくこと。また、教科書2の1-22頁を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習しておくこと。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第6回	型紙法によるスプリント作製実習 型紙を作図し、ショートサムスパイカスプリントを作製する。	教科書2の84-91頁を読み、動画を閲覧しておくこと。(90分)	実習内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第7回	直接法によるスプリント作製実習（白戸） 直接法により、掌側型カックアップスプリントを作製する。	教科書2の24-36頁を読み、動画を閲覧しておくこと。(90分)	実習内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第8回	ポータブルスプリングバランサーの適応と使用方法 三角巾の適用と装着方法	ポータブルスプリングバランサー適応の目的、適応疾患を調べておくこと。三角巾の装着方法について調べておくこと。(90分)	実習内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第9回	グループワークによる事例検討 グループワークにより事例の評価のまとめ方、問題点の抽出方法、目標設定の方法を学ぶ。	なし	グループワークにより十分なディスカッションを行い考えを共有すること。(90分)
担当教員	白戸 力弥、金 京室、金谷 匡紘		
第10回	事例検討後のプレゼン(各グループ) 実習サマリーシートを用いて、各グループでプレゼンテーションを行う。	プレゼンテーション資料(サマリー)の作成、準備を行うこと。(90分)	他のグループ、教員の意見を参考に、サマリーを修正し、提出すること。(90分)
担当教員	白戸 力弥、金 京室、金谷 匡紘		

第11回	事例検討後のプレゼン(各グループ) 実習サマリーシートを用いて、各グループでプレゼンテーションを行う。	プレゼンテーション資料(サマリー)の作成、準備を行うこと。(90分)	他のグループ、教員の意見を参考に、サマリーを修正し、提出すること。(90分)
担当教員	白戸 力弥、金 京室、金谷 匡紘		
第12回	定期試験外試験とまとめ	定期試験外試験に備え学習すること	試験内容について復習すること。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	定期試験外試験(60%)、レポート、スプリント作製、グループ作成のプレゼンテーションを評価する。	
その他	0		
教科書			
教科書1: 上肢運動器疾患の画像リハビリテーション／白戸力弥／ヒューマンプレス(2年次から使用) 教科書2: 熱可塑性スプリント作製マニュアル／坪田貞子／三輪書店			
参考文献			
臨床ハンドセラピー／坪田貞子／文光堂 身体作業療法クイックリファレンス／坪田貞子／文光堂			
履修条件・留意事項等			

基礎医学、解剖学、生理学を履修し、復習しておくこと。実習科目のため、原則、遅刻・欠席を認めない。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 作業療法治療学					
科目名		日常生活適応学演習				ナンバリング	3540
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	大坂 隆介、金谷 匡紘						
授業の位置づけ							
作業療法評価学・作業療法治療学の基本的技能を身につけている。(知識・技能)と関係する科目である(知識・技能)。基本動作や日常生活動作の評価・介入方法を学習し「評価実習」「総合臨床実習」に繋げる科目である。							
授業の概要							
日常生活活動(ADL)の概念・各動作の分析・評価ポイントについて実技を交えて学習する。作業療法の対象とする主な疾患のADLについて、障害特性に応じた評価・介入について理解する。身体面だけでなく、環境因子とADLの関連について学び、福祉用具等の活用について知識・技術を学ぶ。代表的なADL評価スケールによる評価を学ぶ。							
到達目標							
・日常生活行為の概念・意義・範囲について理解できる。 ・基本動作および日常生活活動の分析・評価ポイントを理解し評価できる。 ・福祉用具・自助具の知識や活用方法について理解できる。 ・評価スケールによる評価について理解し実践できる。 ・日常生活活動の観察と記録を適切に実施することができる。							
授業の方法							
パワーポイントと配布資料を用いた講義・動画等で学習した後、実技の実演指導、学生同士での演習を実施する。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

科目担当の大坂・金谷はリハビリテーション病院で作業療法士として実務していた経験を生かして、片麻痺やパーキンソンなど特徴的な疾患の患者様の基本動作や日常生活動作の評価、介入のポイントを押さえた授業展開を行う。

課題に対するフィードバックの方法

OSCE後に解説・指導を行います。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	授業オリエンテーション（大坂） 日常生活活動とは生活行為の分類、構成要素について学ぶ。	教科書P10～の図1から図9を予習する(20分)	生活行為の構成要素・範囲・ADLの概念について復習する(25分)
担当教員			
第2回	基本動作の分析・評価： 寝返り～起き上がり動作の構成要素・観察評価の観点を学ぶ。片麻痺を想定し、全介助～一部介助・誘導の仕方を学習する。	寝返り～起き上がりの手順について教科書P66～69を確認しておくこと(20分)	寝返り～起き上がりの動作手順・評価ポイント・介助や誘導方法について復習する(25分)
担当教員	金谷 匡紘		
第3回	基本動作の分析・評価：（金谷） 起き上がり～座位動作の構成要素・観察評価の観点を学ぶ。片麻痺を想定し、全介助～一部介助・誘導の仕方を学習する。	起き上がり～座位の手順について、教科書P66～P70を確認しておくこと。(20分)	起き上がり～座位の動作手順・評価ポイント・介助や誘導方法について復習する(25分)
担当教員	金谷 匡紘		
第4回	基本動作の分析・評価： 立ち上がり・立位・歩行動作の構成要素・観察評価の観点を学ぶ。片麻痺を想定し、全介助～一部介助・誘導の仕方を学習する。	立ち上がり・立位・歩行動作の構成要素について教科書P71～P73を確認しておくこと。(20分)	立ち上がり・立位・歩行動作の手順・評価ポイント・誘導や介助方法について復習する(25分)
担当教員	金谷 匡紘		

第5回	基本動作の分析・評価: ベッド～車椅子間の移乗動作の構成要素・観察評価の観 点を学ぶ。片麻痺を想定し、全介助～一部介助・誘導の仕 方を学習する。	移乗動作の構成要素について 教科書P74～P77を確認しておく こと。(20分)	移乗動作手順・評価ポイント・介 助方法や誘導方法を復習する(25分)
担当教員	金谷 匡紘		
第6回	日常生活活動:食事の分析・評価・福祉用具の選択・使用 方法:(大坂) 食事動作時の評価ポイントの確認と、機能障害により起こる 動作への影響を学ぶ。福祉用具の種類や使い方について 理解する。	食事動作について教科書P83～ を確認しておくこと(20分)	食事動作手順・評価ポイント・自 助具について復習する(25分)
担当教員			
第7回	日常生活活動の分析・評価・福祉用具の選択・使用方法: 整容(大坂) 整容動作時の評価ポイントの確認と、機能障害により起こる 動作 への影響を学ぶ。福祉用具の種類や使い方について理解 する。	整容動作について教科書P83～ を確認しておくこと(20分)	整容動作手順・評価ポイント・自 助具について復習する(25分)
担当教員			
第8回	日常生活活動の分析・評価・福祉用具の選択・使用方法: 更衣動作(大坂) 更衣動作時の評価ポイントの確認と、機能障害により起こる 動作への影響を学ぶ。福祉用具の種類や使い方について 理解する。	更衣動作について教科書P121 ～を確認しておくこと(20分)	片麻痺者の更衣動作手順・評 価ポイントを復習する(25分)
担当教員			
第9回	日常生活活動の分析・評価・福祉用具の選択・使用方法: 更衣動作(大坂) 更衣動作時の評価ポイントの確認と、機能障害により起こる 動作への影響を学ぶ。福祉用具の種類や使い方について 理解する。	更衣動作について教科書P121 ～を確認しておくこと(20分)	片麻痺者の更衣動作手順・評 価ポイント・リスクについて復習 する(25分)
担当教員			
第10回	日常生活動作の分析・評価・福祉用具の選択・使用方法: 入浴動作(大坂) 入浴動作時の評価ポイントの確認と、機能障害により起こる 動作への影響を学ぶ。福祉用具の種類や使い方について 理解する。	入浴動作について教科書P158 ～を確認しておくこと(20分)	片麻痺者の入浴動作手順・評 価ポイント・リスクについて復習 する(25分)
担当教員			

第11回	日常生活活動の分析・評価、福祉用具の選択・使用方法：トイレ動作(大坂) トイレ動作時の評価ポイントの確認と、機能障害により起こる動作への影響を学ぶ。福祉用具の種類や使い方について理解する。	片麻痺患者のトイレ動作方法について教科書P148排泄訓練の部分を確認しておくこと(20分)	トイレ動作について、復習すること(25分)
担当教員			
第12回	車椅子に乗車しての片麻痺者のトイレ動作を体験し、評価ポイントを確認する(大坂)	片麻痺のトイレ動作確認しておく(20分)	授業内で体験したトイレ動作について、課題レポートをまとめること(60分)
担当教員			
第13回	車椅子に乗車しての片麻痺者のトイレ動作を体験し、評価ポイントを確認する(金谷)	教科書P121～片麻痺のトイレ動作の復習しておく(20分)	授業内で体験したトイレ動作について、課題レポートをまとめること(25分)
担当教員			
第14回	Bathel Index Functional Independence Measure(FIM)の診かた・採点を学ぶ	BI, FIMについて予習をする(20分)	BI・FIMを用いた評価方法を事例を通して復習する(25分)
担当教員	金谷 匡紘		
第15回	Bathel Index Functional Independence Measure(FIM)の診かた・採点を学ぶ	BI, FIMについて予習をする(20分)	BI・FIMを用いた評価方法を事例を通して復習する(25分)
担当教員	金谷 匡紘		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	OSCEによる実技試験成績で判定する	

その他	0	
教科書		
日常生活活動・社会生活行為学 濱口豊太／医学書院		
参考文献		
症例動作分析―動画から学ぶ姿勢と動作 限元庸夫／ヒューマン・プレス		
履修条件・留意事項等		
実技授業はケーシーもしくはジャージ等動きやすい服装で参加すること		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 作業療法治療学					
科目名		発達障害作業療法治療学				ナンバリング	3518
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	小玉 武志						
授業の位置づけ							
発達障害の「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」 「作業療法評価学・作業療法治療学の基本的技能を身につけている。(知識・技能)」ための科目である。作業療法評価学と小児科学・発達心理学及び人間発達学を基礎とし、発達障害領域における作業療法の概要と評価方法を学ぶ。発達障害作業療法治療学の基礎となる。							
授業の概要							
発達障害作業療法の概要と、その実践に必要な基礎知識と評価技術を学ぶ 1) 発達過程における障害について理解するため、定型発達について学び、人間発達学的な視点の重要性について理解を深める 2) 発達障害作業療法における評価方法と技術について学習する。							
到達目標							
1) 定型発達の過程を理解し、人間発達学の視点から障害児を理解する重要性を理解する 2) 障害児に対して定型発達の知識をもとに、その発達過程における課題を理解することができる。 3) 発達障害差療養法において使用される各種評価方法についての知識を身につける。 4) 評価方法の一部を実践し、その解釈を行うことができる							
授業の方法							
パワーポイントを中心に講義を行う。 学生が主体となって調べた内容をまとめ、発表を行う							
ICT活用							
オンラインでミニテストを実施し、理解度の把握と知識の定着を図る							
実務経験のある教員の教育内容							

北海道済生会みどりの里にて、重症心身障害を持つ対象者の方々、及び外来部門において発達障害の児童に対する作業療法を実践してきた経験から臨床現場で必要となる知識や技術の伝達を行うことができる。また、現在通所支援事業所の教育にも携わっている経験から、将来的な発達障害の作業療法の分野の動向を交えながら授業を行う

課題に対するフィードバックの方法

ミニテストにより振り返りを行う

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	発達障害作業療法の歴史的変遷、理念と役割を理解する。 時代背景と共に変化してきた発達障害作業療法の対象と範囲について理解を深める	作業療法概論について復習しておくこと(90分)	授業資料の振り返り(90分)
担当教員			
第2回	発達障害作業療法の評価の手順や関わり、重要な視点と注意点について理解を深める	人間発達学について復習しておくこと(90分)	授業資料の振り返り(90分)
担当教員			
第3回	胎生期の発達における各機能の発達とそれぞれの機能の関連性について学び、乳児期の基礎となる知識を深める	人間発達学について復習しておくこと(90分)	授業資料の振り返り(90分)
担当教員			
第4回	新生児期から幼児期にける姿勢運動の基礎となる反射や反応の発達について理解を深め、作業療法介入の基礎となる視点を身につける	人間発達学について復習しておくこと(90分)	授業資料の振り返り(90分)
担当教員			

第5回	幼児期から青年期における姿勢及び運動機能の発達について知り、作業療法の介入につながる視点を身につける	人間発達学について復習しておくこと(90分)	授業資料の振り返り(90分)
担当教員			
第6回	応用動作及び協調運動についての発達を知り、作業療法介入の視点について理解を深める	3~5回の内容について復習しておくこと(90分)	授業資料の振り返り(90分)
担当教員			
第7回	認知機能の発達の理解を深め、作業療法での介入の視点と考え方について学ぶ	人間発達学について復習しておくこと(90分)	授業資料の振り返り(90分)
担当教員			
第8回	言語・コミュニケーション機能の発達の理解を深め、作業療法介入の視点となる考え方を学ぶ	人間発達学について復習しておくこと(90分)	授業資料の振り返り(90分)
担当教員			
第9回	社会性・ADLの発達について理解を深め、作業療法介入の視点と考え方について学ぶ	人間発達学について復習しておくこと(90分)	授業資料の振り返り(90分)
担当教員			
第10回	動画教材を用いて、児童の発達段階についてディスカッションを行い、介入の視点となるclinical reasoningについての基礎を学ぶ	3~9回の授業の内容を復習しておくこと(90分)	授業資料の振り返り(90分)
担当教員			

第11回	各種評価法について、学生が主体となり発表を行い、知識を深める	グループ学習において各課題についてまとめ、資料の作成を行うこと(90分)	授業資料の振り返り(90分)
担当教員			
第12回	各種評価法について、学生が主体となり発表を行い、知識を深める	グループ学習において各課題についてまとめ、資料の作成を行うこと(90分)	授業資料の振り返り(90分)
担当教員			
第13回	発達障害作業療法の分野で用いられる評価法や評価指標について学び、それぞれの特徴と関連する機能について理解を深める	事前に配布した資料を確認しておくこと(90分)	授業資料の振り返り(90分)
担当教員			
第14回	発達障害作業療法の分野で用いられる評価を体験し、検査項目に関連する認知機能の要素について理解をする	事前に配布した資料を確認しておくこと(90分)	授業資料の振り返り(90分)
担当教員			
第15回	学習した評価表の結果の解釈についてディスカッションを行う 授業の理解度を確認するための総演習を行う	11~14回の授業内容を復習しておくこと(90分)	授業資料の振り返り(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	単元ごとのミニテストの結果 課題の提出内容 授業の参加姿勢 総演習の結果	

その他	0	
教科書		
発達障害の作業療法 基礎編 第3版／岩崎清隆・鴨下賢一(著)／三輪書店 発達障害の作業療法 実践編 第3版／岩崎清隆・鴨下賢一・岸本光夫(著)／三輪書店		
参考文献		
小児リハ評価ガイド／楠本泰士・友利幸之介／メディカルビュー		
履修条件・留意事項等		
積極的な姿勢での授業参加 主体的な行動 医療人としての最低限の倫理的行動を求めます		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 作業療法治療学					
科目名		発達障害作業療法治療学演習				ナンバリング	3520
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	小玉 武志						
授業の位置づけ							
発達障害分野における「作業療法を実践するために必要な基本的知識(知識・技能)を身につけている」ことに関する科目である。発達障害の特徴と評価・治療を習得する							
授業の概要							
発達障害作業療法対象となる各疾患の特徴について学ぶ 各疾患・障害ごとの評価や治療, 必要な社会資源の活用について学ぶ							
到達目標							
各疾患の障害像を理解し, 説明することができる 発達障害作業療法の治療的関わりについて知識を深め, 一部実践ができる							
授業の方法							
パワーポイントや動画等を活用した講義・演習を行う グループワークを行い, 事例に対して様々な視点から理解を深める							
ICT活用							
オンラインでミニテストを実施し, 理解度の把握と知識の定着を図る							
実務経験のある教員の教育内容							

北海道済生会みどりの里にて、重症心身障害を持つ対象者の方々、及び外来部門において発達障害の児童に対する作業療法を実践してきた経験から臨床現場で必要となる知識や技術の伝達を行うことができる。また、現在通所支援事業所の教育にも携わっている経験から、将来的な発達障害の作業療法の分野の動向を交えながら授業を行う

課題に対するフィードバックの方法

ミニテストにより振り返りを行う

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	発達障害作業療法の対象となる疾患について学び、個々の疾患の特性について理解する	発達障害作業療法治療学を復習する	授業資料の振り返り(20分)
担当教員			
第2回	発達障害に関わる社会制度と、発達障害作業療法に用いられる治療理論について理解を深める	前回の講義内容を復習する(30分)	授業資料の振り返り(20分)
担当教員			
第3回	中枢性疾患の障害特性について学び、基本的治療方針の立案に係る情報収集のあり方や作業療法実践について理解を深める	脳性麻痺の概要について教科書を確認する(30分)	授業資料の振り返り(20分)
担当教員			
第4回	中枢性疾患において治療的手段として行われる手技について実技を行う～座位評価とハンドリング～	前回の講義内容を復習する(30分)	授業資料の振り返り(20分)
担当教員			

第5回	中枢性疾患において治療的手段として行われる手技について実技を行う～動作分析～	前回の講義内容を復習する(30分)	授業資料の振り返り(20分)
担当教員			
第6回	重症心身障害の障害特性について学び, 基本的治療方針の立案に係る情報収集のあり方や作業療法実践について理解を深める	前回の講義内容を復習する(30分)	授業資料の振り返り(20分)
担当教員			
第7回	神経筋疾患の基礎的理解を深める～筋ジストロフィーの障害特性と作業療法実践について学ぶ～	神経筋疾患の概要について教科書を確認する(30分)	授業資料の振り返り(20分)
担当教員			
第8回	神経筋疾患の基礎的理解を深める～二分脊椎, 分娩麻痺, その他神経疾患について学ぶ～	神経筋疾患の概要について教科書を確認する(30分)	授業資料の振り返り(20分)
担当教員			
第9回	自閉スペクトラム症の障害特性について学び, 基本的治療方針の立案に係る情報収集のあり方や, 作業療法実践について理解を深める	自閉スペクトラム症の概要について教科書を確認する(30分)	授業資料の振り返り(20分)
担当教員			
第10回	知的障害の障害特性について学び, 基本的治療方針の立案に係る情報収集のあり方や, 作業療法実践について理解を深める	知的障害の概要について教科書を確認する(30分)	授業資料の振り返り(20分)
担当教員			

第11回	注意欠如多動症, 学習症, 発達性協調運動症の障害特性について学び, 基本的治療方針の立案に係る情報収集のあり方や, 作業療法実践について理解を深める	発達障害の概要について教科書を確認する(30分)	授業資料の振り返り(20分)
担当教員			
第12回	各疾患における作業療法の介入について調べ, まとめたものを発表する	自ら調べた内容をまとめ, 発表資料を作成する(30分)	授業資料の振り返り(20分)
担当教員			
第13回	各疾患における作業療法の介入について調べ, まとめたものを発表する	自ら調べた内容をまとめ, 発表資料を作成する(30分)	授業資料の振り返り(20分)
担当教員			
第14回	肢体不自由児に対して動画を見ながら, 治療的介入の視点についてディスカッションを行い, 考えを深める	これまでの講義内容を復習する(30分)	授業資料の振り返り(20分)
担当教員			
第15回	発達障害児に対して動画を見ながら, 治療的介入の視点についてディスカッションを行い, 考えを深める 発達障害に対する作業療法実践について内容を深め, 理解度についての確認と復習を行う	これまでの講義内容を復習する(30分)	授業資料の振り返り(20分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	総演習の結果 単元ごとのミニテストの結果 課題の提出内容 授業への参加姿勢	

その他	0	
教科書		
発達障害の作業療法 基礎編 第3版／岩崎清隆・鴨下賢一(著)／三輪書店 発達障害の作業療法 実践編 第3版／岩崎清隆・鴨下賢一・岸本光夫(著)／三輪書店		
参考文献		
作業療法学 ゴールドマスターテキスト「発達障害作業療法学」／長崎重信 監修／メディカルビュー社		
履修条件・留意事項等		
積極的な姿勢での授業参加(ディスカッションでの発言) 主体的な行動(質問できる力) 医療人としての最低限の倫理的行動を求めます(話を聞く態度／授業に対する参加意欲)		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 臨床実習					
科目名		総合臨床実習Ⅰ				ナンバリング	4704
配当年次	4年	開講学期	2023年前期	区分	実習	単位	8
担当教員	金子 翔拓、金 京室						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「思考・論究・表現」の「根拠に基づく作業療法(EBOT)の実践のために問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、論理的な解決法を見いだす」能力を養うための科目である。「見学実習」「評価実習」に関連し、「総合臨床実習Ⅱ」と独立した、仕上げの科目である。「作業療法総合セミナーⅠ・Ⅱ」の基礎となる。							
授業の概要							
作業療法教育の最終段階として実施されるもので、作業療法実務の総合的な臨床学習を主眼とし、「評価実習」の経験に基づき臨床教育者のクリニカルクラークシップの指導手法を通じて問題点を抽出し、目標をたて治療プログラムを実践する。さらに地域社会での支援者のあり方および支援体制について学び、作業療法対象者の生活実態を総合的に理解することを目的としている。							
到達目標							
実習施設でCEの指導、管理の下、以下について「見学」「模倣」から段階的に体験し、最終的に「実施」できるようになること。 1. 実習生としての責任と良識のある行動 2. 作業療法部門の機能と役割、管理運営の理解 3. 対象者に対する適切な評価 4. 対象者への適切な治療および援助 5. 対象者の評価、治療、援助の意味やリスクの理解 6. 専門用語を用いた客観的でわかりやすい記録、報告 7. CEの作業療法過程での思考内容							
授業の方法							
学外の施設でクリニカルクラークシップ(作業療法参加型)方式による実習を行う。 CEの臨床行動を見学・模倣・実施の順序で実践的に学習する。大学では、事前・事後指導、実習施設への訪問指導を必要時間実施する。自主学習として学生はポートフォリオ形式の実習サブノートを作成する。サマリー及び凝縮ポートフォリオを用いたグループディスカッションを実施する。							
ICT活用							
Google formを活用して、事例に対する考え方や評価など、適宜学内から発信し、学外実習における自主学習を促す。							
実務経験のある教員の教育内容							

金子翔拓、白戸力弥、金谷匡紘、金京室、大坂隆介: 病院やクリニックなどの身体障害領域において作業療法士として5年以上勤務した経験を活かし、臨床実習の授業を行う。

大川浩子: 病院や施設などの精神科領域において作業療法士として5年以上勤務した経験を活かし、臨床実習の授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

サマリーは学内で教員が1回以上指導します。発表等は教員がその場でコメントします。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	事前指導(35時間) 各種事務手続きと領域ごとの事前指導による知識・技能の学習及び国試模試及びAdvanced-OSCEによる技能・態度到達度確認。	国家試験模試及びAdvanced-OSCEにむけて学習し、必要な事務手続きを行う。	実習施設への事前電話をする。 また、事前指導を踏まえ、把握された自己の課題について取り組む。
担当教員			
第2回	実習施設にて、クリニカルクラークシップによる実習 臨床教育者の指導、監視の下、様々な場面で見学、模倣、実施を行う	臨床場面における、見学、模倣、実施に必要な知識の確認、実技練習等の自己学習を行う。	必要な情報を集め、整理し、実習サブノートを作成する。
担当教員			
第3回	実習施設にて、クリニカルクラークシップによる実習 臨床教育者の指導、監視の下、様々な場面で見学、模倣、実施を行う	臨床場面における、見学、模倣、実施に必要な知識の確認、実技練習等の自己学習を行う。	必要な情報を集め、整理し、実習サブノートを作成する。
担当教員			
第4回	実習施設にて、クリニカルクラークシップによる実習 臨床教育者の指導、監視の下、様々な場面で見学、模倣、実施を行う	臨床場面における、見学、模倣、実施に必要な知識の確認、実技練習等の自己学習を行う。	必要な情報を集め、整理し、実習サブノートを作成する。
担当教員			

第5回	実習施設にて、臨床クラークシップによる実習 臨床教育者の指導、監視の下、様々な場面で見学、模倣、実施を行う	臨床場面における、見学、模倣、実施に必要な知識の確認、実技練習等の自己学習を行う。	必要な情報を集め、整理し、実習サブノートを作成する。
担当教員			
第6回	実習施設にて、臨床クラークシップによる実習 臨床教育者の指導、監視の下、様々な場面で見学、模倣、実施を行う	臨床場面における、見学、模倣、実施に必要な知識の確認、実技練習等の自己学習を行う。	必要な情報を集め、整理し、実習サブノートを作成する。
担当教員			
第7回	実習施設にて、臨床クラークシップによる実習 臨床教育者の指導、監視の下、様々な場面で見学、模倣、実施を行う	臨床場面における、見学、模倣、実施に必要な知識の確認、実技練習等の自己学習を行う。	必要な情報を集め、整理し、実習サブノートを作成する。
担当教員			
第8回	実習施設にて、臨床クラークシップによる実習 臨床教育者の指導、監視の下、様々な場面で見学、模倣、実施を行う	臨床場面における、見学、模倣、実施に必要な知識の確認、実技練習等の自己学習を行う。	必要な情報を集め、整理し、実習サブノートを作成する。
担当教員			
第9回	実習施設にて、臨床クラークシップによる実習 臨床教育者の指導、監視の下、様々な場面で見学、模倣、実施を行う	臨床場面における、見学、模倣、実施に必要な知識の確認、実技練習等の自己学習を行う。	必要な情報を集め、整理し、実習サブノートを作成する。
担当教員			
第10回	学内における事後指導(35時間) 教員の指導の下、臨床実習の経験をサマリーシート及び凝縮ポートフォリオをまとめる。実習で学んだ経験を発表し、グループディスカッションなどを実施する。	教員の指導を受け、サマリーシートのまとめる。事後セミナーで発表・討論にむけて準備をする。	総合臨床実習Ⅱにむけて、事後セミナーで学習したことをまとめ、不足していることを自己学習で深める。
担当教員			

第11回	なし	なし	なし
担当教員			
第12回	なし	なし	なし
担当教員			
第13回	なし	なし	なし
担当教員			
第14回	なし	なし	なし
担当教員			
第15回	なし	なし	なし
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	事前指導(A-OSCE、取り組み態度や出席率など)・実習中の遂行評価・事後指導の評価から総合的に判断。	

その他	0	特になし
教科書		
北海道文教大学 臨床実習指導要領		
参考文献		
1年生～3年生までに使用した専門書を参考にします		
履修条件・留意事項等		
履修条件:①4年次への進級要件を満たしている、②事前指導に原則全て出席、③A-OSCEに合格 ③のA-OSCEに合格していない場合、臨床実習の配置を取り消し、単位認定できないことがある		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 臨床実習					
科目名		総合臨床実習Ⅱ				ナンバリング	4705
配当年次	4年	開講学期	2023年前期	区分	実習	単位	8
担当教員	白戸 力弥、金 京室						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシー「作業療法理論に基づき、生活行為の向上について、対象者の自律性と個別性を尊重できる(関心・意欲・態度)」と特に関係がある科目である。また、根拠に基づく作業療法(EBOT)の実践のために、問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、論理的な解決法を見いだせる(思考・判断・表現)ことも関係する。							
授業の概要							
3年次までに学習した作業療法の知識、技術を用い、臨床教育者のもとに、作業療法の実践を経験する。基本的には身体障害領域、精神障害領域、発達障害領域を経験するが、一部老年期障害領域の実習が行われることもある。また、リハビリテーションチームの一員として、スタッフや関係者との連携協力や記録・報告および管理面の実際を体験する。							
到達目標							
以下の目標について実習施設でクリニカルクラークシップ(診療参加型臨床実習)による「見学」「模倣」から段階的に体験し、最終的に「実施」できるようになること。 1. 作業療法実習生として責任と良識のある行動をする 2. 臨床実習施設における作業療法部門の機能と役割、管理運営について理解する 3. 臨床教育者の指導、監視の下、対象者に適切な評価を見学、模倣、実施する 4. 臨床教育者の指導、監視の下、対象者に適切な治療および援助を見学、模倣、実施する 5. 対象者に行う評価、治療、援助に関する意味やリスクを理解する 6. 専門用語を用いた客観的でわかりやすい記録、報告を行う							
授業の方法							
学内での事前・事後指導と臨床実習施設で臨床教育者の指導、監視の下に8週間の実習を行う。なお、本実習は、北海道文教大学臨床実習指導要領に従って、クリニカルクラークシップの手法により実施する。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

全ての教員が実務経験を有しており、実習事前および実習事後の指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

事後指導として、サマリー発表を行い、グループディスカッションを行う。また教員からのフィードバックを実施する。さらに追加に必要な学生には個別に対応する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	総合臨床実習Ⅱオリエンテーションと事前指導 実習の目的と実施目標を理解し、必要な事務手続きを行う。 各専門領域における面接・観察・評価の特性と作業療法プログラム立案の方法・手段を確認する。対象者の全体像をまとめ、治療方針に適したモデルを選択し、作業療法を立案・計画を行う作業療法実践の流れを確認する。	事前指導の日程を把握し、必ず出席すること。	オリエンテーションと事前指導についてよく復習すること。
担当教員	村上 優衣、白戸 力弥		
第2回	実習施設にて(全8週間) 実習施設におけるリハビリテーション部門の概要と他職種間連携を理解し一員として参加する経験をする。	翌日の実習に備え、自主的に実施すること。	臨床実習指導者の指示に従い、さらに自主的に実施すること。
担当教員			
第3回	実習施設にて臨床教育者の指導の下、対象者に関連した情報を適切に収集し、作業療法評価と作業療法計画立案する過程を「見学」「模倣」後、最終的に「実施」する。	翌日の実習に備え、自主的に実施すること。	臨床実習指導者の指示に従い、さらに自主的に実施すること。
担当教員			
第4回	実習施設にて臨床教育者の指導の下、作業療法計画を対象者の状況に合わせて「見学」「模倣」、「実施」し、その実施過程をディリーノートに記録し、思考過程を学習する。実施におけるリスクを理解し、最終的に「実施」できるようになる。大学教員による各施設への巡回指導・アドバイスに合わせ必要に応じて適切に改善する。	翌日の実習に備え、自主的に実施すること。	臨床実習指導者の指示に従い、さらに自主的に実施すること。
担当教員			

第5回	実習施設にて臨床教育者の指導の下、必要に応じて対象者の実施状況を再評価、作業療法計画の変更・修正について「見学」「模倣」、「実施」する。	翌日の実習に備え、自主的に実施すること。	臨床実習指導者の指示に従い、さらに自主的に実施すること。
担当教員			
第6回	実習施設にて臨床教育者の指導の下、実習内容や必要な情報を、専門用語を使用して記録し報告する。	翌日の実習に備え、自主的に実施すること。	臨床実習指導者の指示に従い、さらに自主的に実施すること。
担当教員			
第7回	実習施設にて臨床教育者の指導の下、作業療法部門の管理・運営を理解し業務遂行を支援する。	翌日の実習に備え、自主的に実施すること。	臨床実習指導者の指示に従い、さらに自主的に実施すること。
担当教員			
第8回	事後指導 事例サマリー発表、討論、情報交換会などを実施する。	学内教員の指示に従い、実習サマリーの作成、発表の準備を行うこと。	サマリー発表で討論した内容について復習すること。
担当教員	村上 優衣、白戸 力弥		
第9回	なし		
担当教員			
第10回	なし		
担当教員			

第11回	なし		
担当教員			
第12回	なし		
担当教員			
第13回	なし		
担当教員			
第14回	なし		
担当教員			
第15回	なし		
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	事前指導、実習中の遂行状況、実習教育者からの総評用紙、事後指導を含めて総合的に判断する。	

その他	0	特になし。
教科書		
指定しない		
参考文献		
北海道文教大学 2023年度臨床実習指導要領 各専門基礎科目、各専門科目教科書と参考書		
履修条件・留意事項等		
臨床実習Ⅲの成績に関わらず履修することができる。但し、Advanced-OSCEに不合格の場合は履修できない。特段の履修なしに、休むことはできない。		
備考欄		